

# 第3期裾野市スポーツ推進計画 (令和8～12年度)



令和8年3月

裾野市教育委員会



## はじめに

裾野市では、これまで第1期及び第2期裾野市スポーツ推進計画に基づき、「市民一人ひとりがスポーツに親しむことができる環境づくり」と「スポーツを通じた地域の活性化」を目指し、各種施策を総合的に推進してまいりました。これまでの取組が一定の成果を上げてきた一方で、社会情勢や市民ニーズの変化に伴い、新たな課題への対応が求められています。

少子高齢化の進行、ライフスタイルの多様化、新型コロナウイルス感染症による影響などにより、市民の健康意識や運動・スポーツへの関わり方は変化してきています。また、部活動の地域展開への対応や、障がいの有無や年齢に関わらず誰もが参加できるスポーツ環境の整備など、今後のスポーツ施策において取り組むべき課題も一層明確になってきました。

こうした状況を踏まえ、本計画では、「市民ひとりひとりがスポーツに親しむことができる環境づくり」と「多様性に満ちた市民スポーツの振興と交流人口の拡大」を基本構想に掲げ、生涯スポーツの推進、スポーツ関連施設の基盤整備・充実、スポーツ団体の育成と部活動の地域展開、スポーツツーリズムの推進を4つの柱として施策を体系的に整理しました。

特に、生涯を通じた運動習慣の定着、子どもたちの体力向上、地域スポーツを支える人材の育成は、将来を担う人づくりの観点からも重要な施策であり、部活動の地域展開における地域指導者との連携、社会教育の場を活用したスポーツ機会の創出など、教育分野との連携を重視しながら取り組んでいきます。また、富士山麓という本市の特性を活かしたスポーツ合宿やイベントの推進により、地域経済への波及効果や交流人口の拡大を図るとともに、市民のスポーツ活動の活性化につなげていきます。

本計画の推進にあたっては、行政だけでなく、市民、スポーツ団体、学校、関係機関、民間事業者など、多様な主体との連携・協働が不可欠です。計画の進行管理を適切に行いながら、施策の着実な実施と効果検証を重ね、市民が生涯にわたりスポーツに親しむことのできる環境整備に努めてまいります。

本計画が、本市のスポーツ施策を総合的かつ計画的に推進するための指針として、市民の健康増進と地域の持続的な発展に寄与するものとなることを期待しています。

令和8年3月

裾野市教育委員会

教育長 風間 忠純

## <目次>

### 序章

1	計画見直しの背景・趣旨	1
2	計画の位置づけ	1
3	計画の期間	2

### 第1章 裾野市におけるスポーツの現状と課題

1	裾野市スポーツ推進計画（平成28年～令和2年度）の目標達成状況	3
2	生涯スポーツの推進の現状と課題	4
3	スポーツ関連施設の現状と課題	10
4	スポーツツーリズムの現状と課題	13

### 第2章 目標と課題項目の設定

1	基本構想	16
2	課題項目	16
3	計画目標	18
4	進行管理	19

### 第3章 施策の展開

1	生涯スポーツの推進	21
2	スポーツ関連施設の整備	28
3	スポーツ団体の育成と部活動の地域展開	30
4	スポーツツーリズムの促進	32

## <資料集>

1	用語集	34
2	令和6年度裾野市市民意識調査抜粋	36
3	令和6年度裾野市教育に関するアンケート抜粋	45
4	裾野市営スポーツ施設の利用状況推移	71
5	裾野市スポーツ推進審議会条例	72

## 序章

### 1 計画見直しの背景・趣旨

裾野市では、これまで第1期スポーツ推進計画では「する」「観る」「支える」という三つの視点で、「体力づくりと健康な身体づくり」「スポーツ活動の推進」「スポーツツーリズムの促進」の三つの課題項目を設定し、市民のスポーツ推進に関する各施策を実施し、第2期スポーツ推進計画では「市民一人一人がスポーツに親しむことができる環境づくり」、「市民スポーツの振興と交流人口・関係人口の拡大」の2つの基本構想の下、「生涯スポーツの推進」、「スポーツ関連施設の整備・充実」、「スポーツツーリズムの推進」の三つの課題項目を通じて、市民が生涯にわたりスポーツに親しむことができる環境づくりや、スポーツを通じた地域活性化に取り組んできました。

しかし、計画期間の終了とともに、社会情勢や市民ニーズの変化、国の「第3期スポーツ基本計画」や静岡県スポーツ推進計画の改定など、スポーツを取り巻く環境が大きく変化しています。加えて、裾野市の「第5次総合計画」や「第3期教育振興基本計画」との整合性を図る必要も生じており、これらを踏まえた新たな方向性の検討が求められました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により、ライフスタイルや健康意識が大きく変化したことも、スポーツの在り方を見直す契機となりました。市民が安全かつ持続的にスポーツに取り組める環境の整備、部活動を含めた地域スポーツの指導者育成、そして誰もがアクセスできるスポーツ環境の実現が、今後の裾野市における重要な課題となっています。

こうした背景のもと、第3期裾野市スポーツ推進計画では、第2期スポーツ推進計画での取り組みを継承しつつ、裾野市の地域特性を活かしながら、すべての市民がスポーツを通じて健康で豊かな生活を送ることができる社会の実現を目指し、施策の見直しと再構築を行いました。

### 2 計画の位置づけ

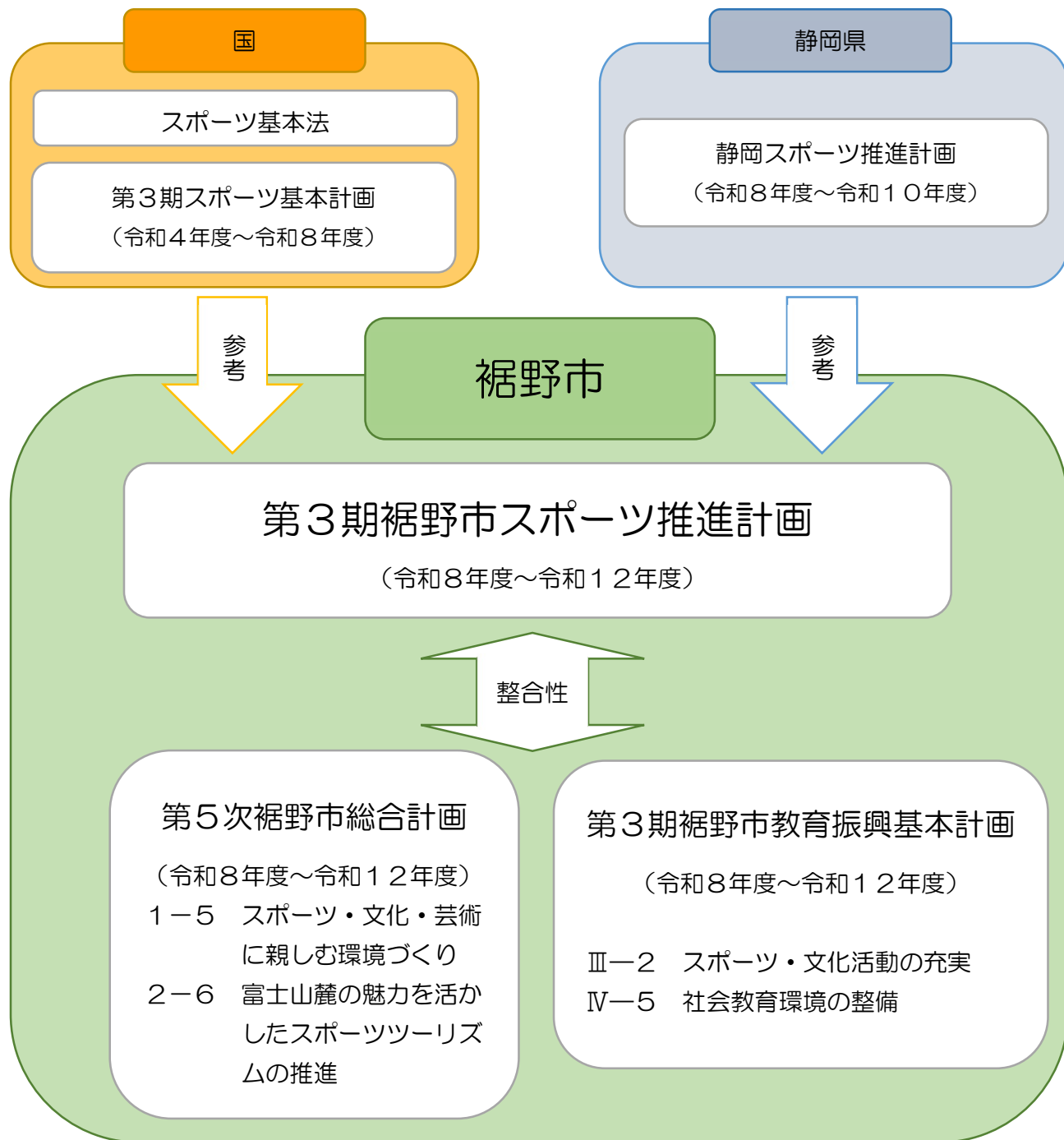
現在策定している「第5次裾野市総合計画」では、教育分野においては『スポーツ・文化・芸術に親しむ環境づくり』、産業分野においては『富士山麓の魅力を活かしたスポーツツーリズムの推進』を目標としています。同時に策定中の「第3期裾野市教育振興基本計画」においては、『スポーツ・文化活動の充実』、『社会教育環境の整備』を基本施策に掲げています。

これらの主旨に従って、スポーツ推進体制を整備するための目標と施策を指し示すものです。

### 3 計画の期間

本計画は、「第5次裾野市総合計画」、「第3期裾野市教育振興基本計画」に合わせ、令和8年度から令和12年度までの5年間の計画とします。

なお、本計画は教育環境の変化等に柔軟に対応するため、計画期間中でも見直しを図ることがあります。



裾野市スポーツ推進計画策定フロー図

## 第1章 裾野市におけるスポーツの現状と課題

### 1 裾野市スポーツ推進計画（令和3年～令和7年度）の目標達成状況

令和3年度から5年間を計画期間とした「第2期裾野市スポーツ推進計画」では、生涯スポーツの推進、スポーツ関連施設の整備・充実、スポーツツーリズム\*の推進を掲げました。これらの基本構想を達成するための3つの計画目標ごとに、これまでの取組を検証します。

#### (1) 30分以上の運動を週1回以上行う市民の割合

ウォーキングなど手軽にできる生涯スポーツの啓発や、自宅でできる簡単なトレーニングの情報提供を行い、令和2年度以降はほぼ横ばいに推移しており、令和6年度は目標の65%を下回りました。

(%)

目標値	R2	R3	R4	R5	R6
65	53.3	52.4	55.0	53.6	56.5

(裾野市市民意識調査)

#### (2) 市内の公共スポーツ施設の年間利用者数

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度から大幅に利用者数が減少したが、年齢や障がいの有無、性別など、様々なニーズに応じたスポーツ教室の開催や、学校体育施設開放事業\*により、徐々に増加し令和6年度は目標を下回ったものの40万人を超えました。

(人)

目標値	R2	R3	R4	R5	R6
450,000	223,243	292,991	324,640	363,534	402,634

(市内公共スポーツ施設と学校体育施設の利用者計)

#### (3) スポーツイベント参加者数

コロナ禍からの回復に向けて、世界最大級の障害物レース「スパルタン」を誘致し、令和5年度に部分開催を、令和6年度から完全開催したことで、目標3,300人を達成しました。その他、アウトドアスポーツや陸上競技、自転車競技など、当市の立地特性を活かしたスポーツイベントを開催しました。

(人)

目標値	R2	R3	R4	R5	R6
3,300	—	787	1,173	2,342	3,774

## 2 生涯スポーツの推進の現状と課題

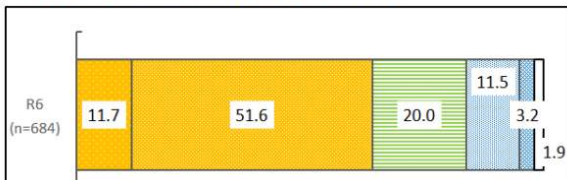
### (1) 運動習慣の定着と拡大

令和6年度実施の「裾野市市民意識調査」(以下市民意識調査)によると、「身体的に健康な状態である」問いに対し、回答者の63.3%が「非常にあてはまる」または「ある程度あてはまる」と回答しています。令和元年度の「大いに健康」、「まあまあ健康」の合計75.3%と比較すると大きく減少しています。一方で「あまり健康でない」が令和元年度では21.8%に対し、令和6年度では「あまりあてはまらない」及び「全くあてはまらない」の合計が14.7%と減少しています。スポーツや運動の頻度については、「週に1回以上スポーツや運動をしている」が令和元年度の49.7%に対し、令和6年度は56.5%と増加しています。また「ほとんどスポーツや運動をしていない」については令和元年度の30.6%に対し、令和6年度は31.1%とやや増加しています。令和6年度はスポーツの運動頻度については改善が見られ、健康ではないと感じる人の割合は減少していますが、健康な状態であると感じる人の割合についても減少しており、今後さらなる運動習慣の定着を図っていくことが求められます。

令和6年度市民意識調査

#### 問17 身体的に健康な状態である

■令和6年度 調査結果【全体】、過年度比較



- 非常にあてはまる
- ある程度あてはまる
- どちらともいえない
- あまりあてはまらない
- 全くあてはまらない
- 無回答

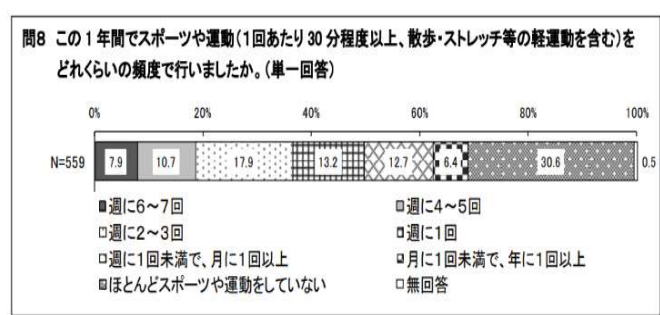
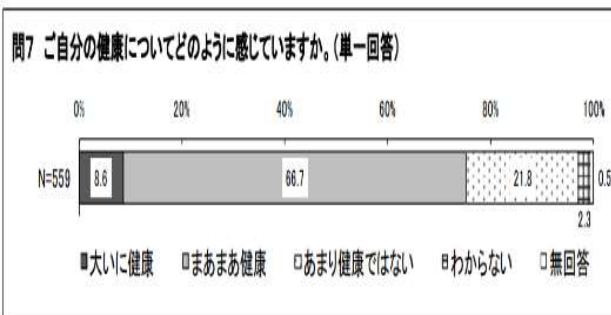
#### 問19 この1年間のスポーツや運動の実施の頻度について

■令和6年度 調査結果【全体】、過年度比較



- 週に6~7回
- 週に2~3回
- 週に1回
- 週に1回未満で月に1回以上
- 月に1回未満で年に1回以上
- ほとんどスポーツや運動をしていない
- 無回答

令和元年度市民意識調査

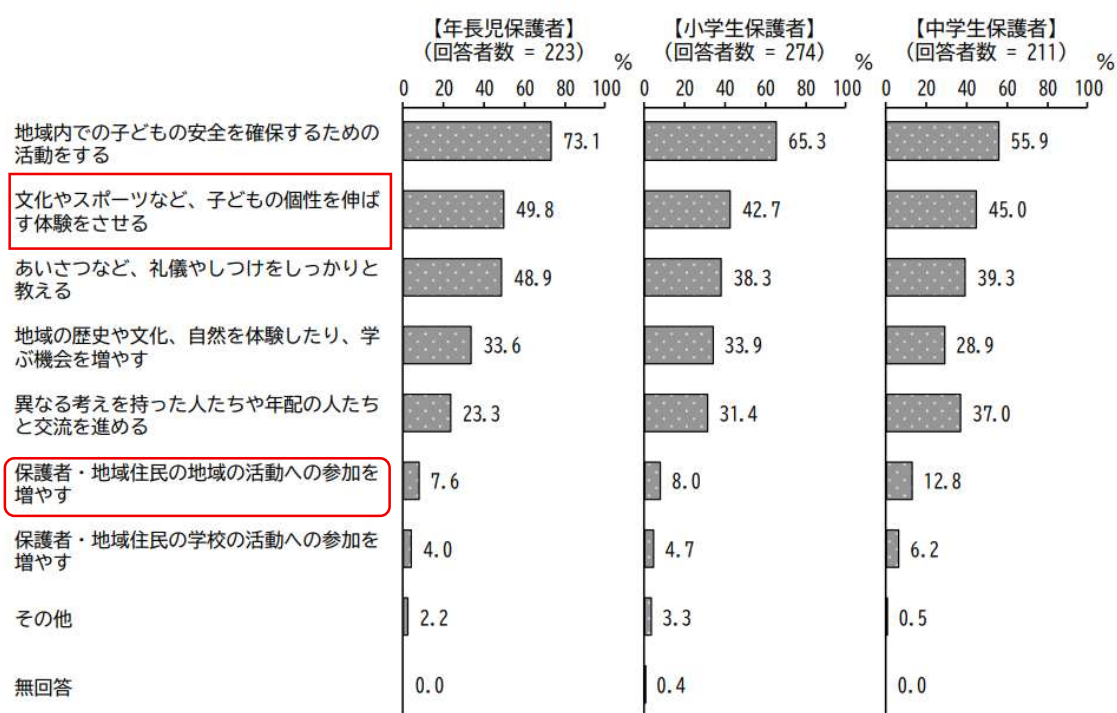


## (2) 子ども\*たちの体力の向上

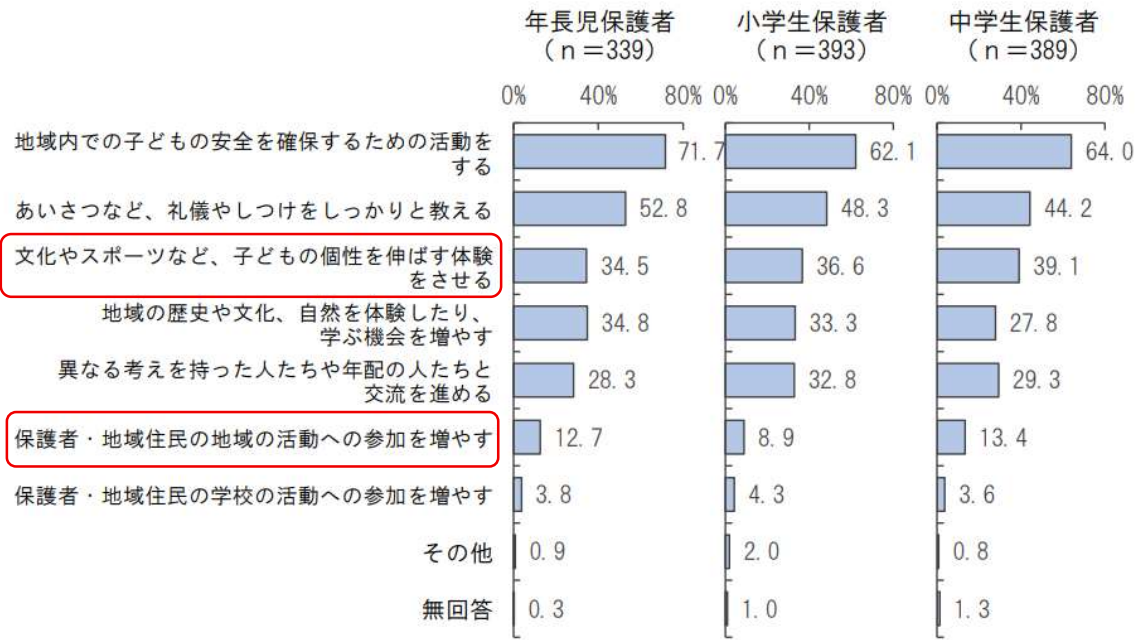
「裾野市教育に関するアンケート調査」(以下アンケート調査)において、「子ども\*を育てるうえで、地域で力を入れるべきことはどんなことだと思いますか」の問いに、「文化やスポーツなど、子ども\*の個性を伸ばす体験をさせる」の項目が、令和元年度のアンケート調査では、年長児保護者の34.5%、小学生保護者の36.6%、中学生保護者の39.1%の回答率だったのが、令和6年度では年長児保護者の49.8%、小学生保護者の42.7%、中学生保護者の45.0%と、「あいさつなど、礼儀やしつけをしっかりと教える」を上回り、全ての保護者の回答率が大幅に高くなりました。また、「保護者・地域住民の地域の活動への参加を増やす」について令和6年度と令和元年度を比較すると、全ての保護者の回答率が減少しており、特に年長児保護者においては5.1%と大幅に減少しています。これらの結果から、地域活動への機運醸成や子ども\*が成長する過程におけるスポーツの重要性が求められており、子ども\*のときからスポーツに親しむ環境、そして、生涯にわたりスポーツに親しむことができる環境を整備する必要があります。

問. 子ども\*を育てるうえで、地域で力を入れるべきことはどんなことだと思いますか。(3つまで○)

### 令和6年度裾野市教育に関するアンケート



### 令和元年度裾野市教育に関するアンケート



### (3) 世代や障がいの程度等に応じたスポーツ機会の創出、充実

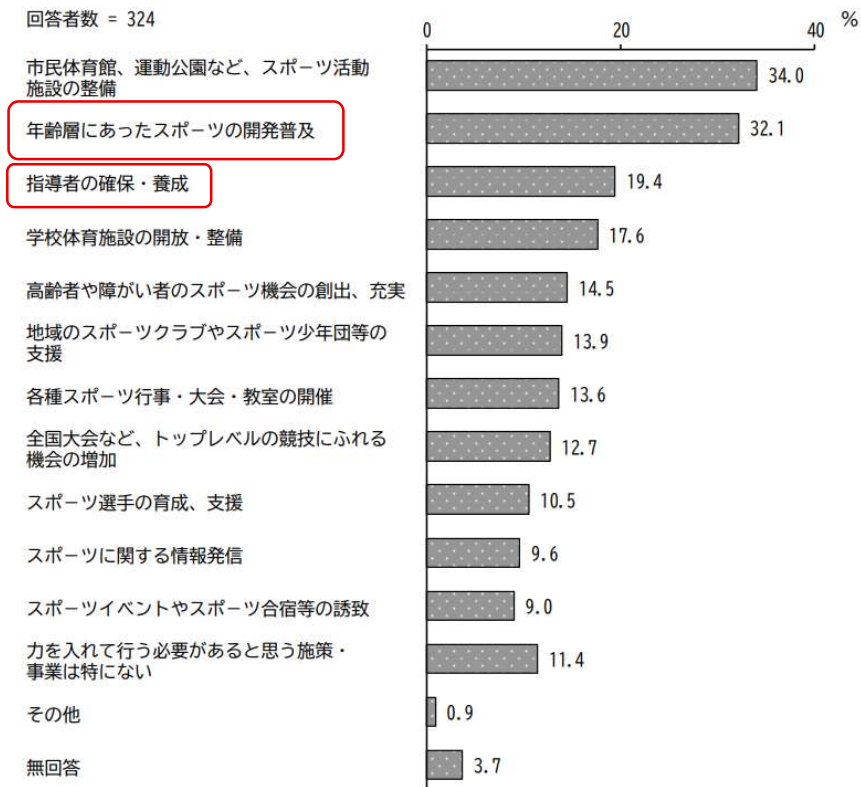
市民の誰もが生涯にわたってスポーツに親しむ機会をふやすために、保健・福祉分野との連携により、高齢期に身体を動かす習慣の普及や、障がい者スポーツ\*の環境づくりや指導者の育成を推進する必要があります。

令和元年度アンケート調査において、市が特に力を入れて行う必要があるスポーツ活動について、「年齢層にあったスポーツの開発普及」が36.6%、「指導者の確保・育成」が19.1%の回答率でしたが、令和6年度アンケートでもそれぞれ32.1%、19.4%と依然高い回答率となっており、年代や性別等に関わらず、スポーツが行える機会の提供や指導者の確保が求められています。

問. 裾野市が特に力を入れて行う必要があると思う教育施策や教育事業は何ですか。(スポーツ活動)

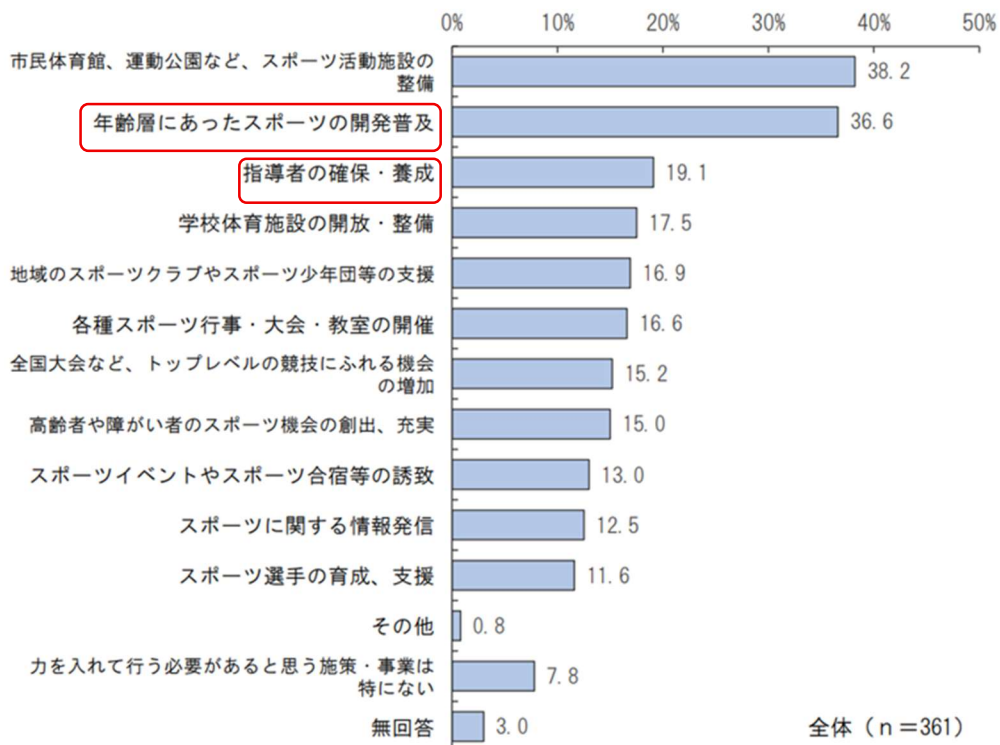
#### 令和6年度裾野市教育に関するアンケート

##### ③スポーツ活動について(3つまで○)



# 令和元年度裾野市教育に関するアンケート

## スポーツ活動について（複数回答：3つまで）



#### (4) 地域スポーツ環境の整備

市民が主体的に参画する地域のスポーツ環境を整備するために、スポーツ推進委員\*やスポーツ関係団体により、競技スポーツからレクリエーション\*スポーツまで、幅広いスポーツ大会や教室等が開催されています。

現在、NPO 法人裾野市スポーツ協会加盟団体が開催する大会や教室、各地区の体育委員会\*が開催するスポーツ推進事業や、全国大会等に出場する団体や選手に対する奨励金、広報等による市内外へのPR活動等、各競技団体や各種団体が行う事業活動に対し支援を行っていますが、地元企業等と連携し、さらなるスポーツの振興を図る必要があります。

また、だれもが体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、スポーツに親しむことができるために、地域スポーツを支える指導者の確保・育成が課題となっています。

#### 各種補助金

内容	対象
<b>スポーツ振興事業補助金</b> 市民スポーツを推進するため、生涯スポーツ事業等を実施する団体に交付	・ NPO法人裾野市スポーツ協会加盟団体が主催するスポーツ大会、スポーツ教室の開催 ・ 各地区で実施するスポーツ推進事業 他
<b>スポーツ選手大会出場奨励金</b> 全国大会以上の各種競技大会に出場する選手に対し、奨励金を交付	・ オリンピック・パラリンピック ・ 世界大会・アジア大会等 ・ 全国大会
<b>地区小運動場設置補助金</b> 地区民のスポーツ推進の場として、区が小運動場を設置する場合に交付	・ 借地料 ・ 整備費
<b>スポーツ指導者養成補助金</b> スポーツの基礎的な知識、技術等を指導する公認資格を有する指導者を養成し、市民スポーツの推進を図ろうとする団体へ交付	・ スポーツ指導員講習受講に要する経費 他

### 3 スポーツ関連施設の現状と課題

#### (1) 各スポーツ施設の整備

市内の公共スポーツ施設は、運動公園や、市民体育館、総合グラウンド等があり、長年、市民スポーツの拠点として親しまれています。しかし、年数の経過により建物や設備は老朽化が進むため、施設の利用実態等を分析し、施設数の最適化を図るとともに計画的な改修等が必要です。また障がい者スポーツ\*の振興を視野に入れたユニバーサルデザイン\*の導入等が求められます。

アンケート調査では、裾野市が特に力を入れて行う必要があると思う教育施策や教育事業の中で「市民体育館、運動公園など、スポーツ活動施設の整備」について、令和元年度では38.0%、令和6年度においても34.0%と引き続き最上位の回答率となっている。市民が快適にスポーツを楽しむことができるよう既存施設の効率的な利用を推進し、より利用しやすい環境整備を図ることが求められています。

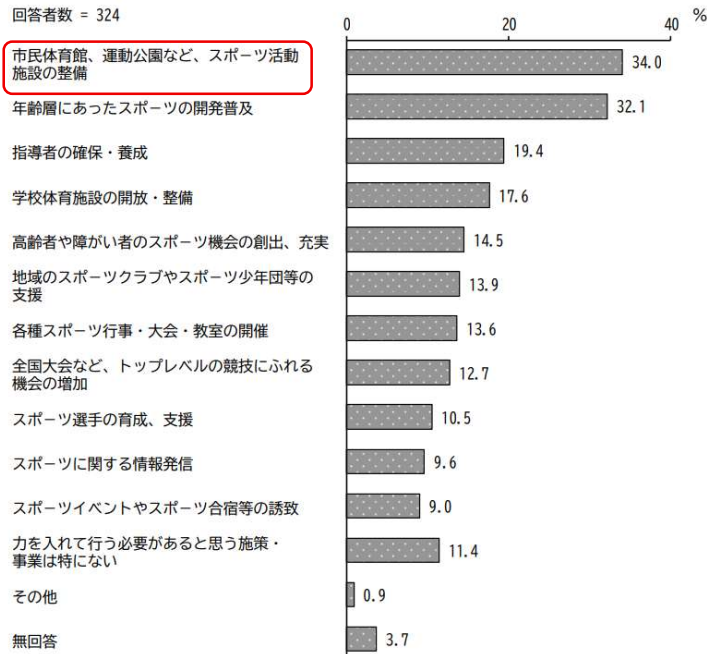
#### 公共スポーツ施設一覧

施設名称	内容
裾野市民体育館	・アリーナ（バスケットボールコート、バレーボールコート、バドミントンコート） ・柔道場・剣道場・トレーニング室 ・卓球場・テニス場・多目的ルーム ・小会議室・健康増進ルーム
裾野市運動公園	・陸上競技場・野球場・テニス場・多目的広場 ・芝生の丘・やすらぎの広場
総合グラウンド	・Aグラウンド（野球場）・Bグラウンド（ソフトボール場）・Cグラウンド（ソフトボール場）・多目的競技場
須山テニス・フットサル場	・テニス場・フットサル場
深良グラウンド	・多目的グラウンド

問. 裾野市が特に力を入れて行う必要があると思う教育施策や教育事業は何ですか。(スポーツ活動)

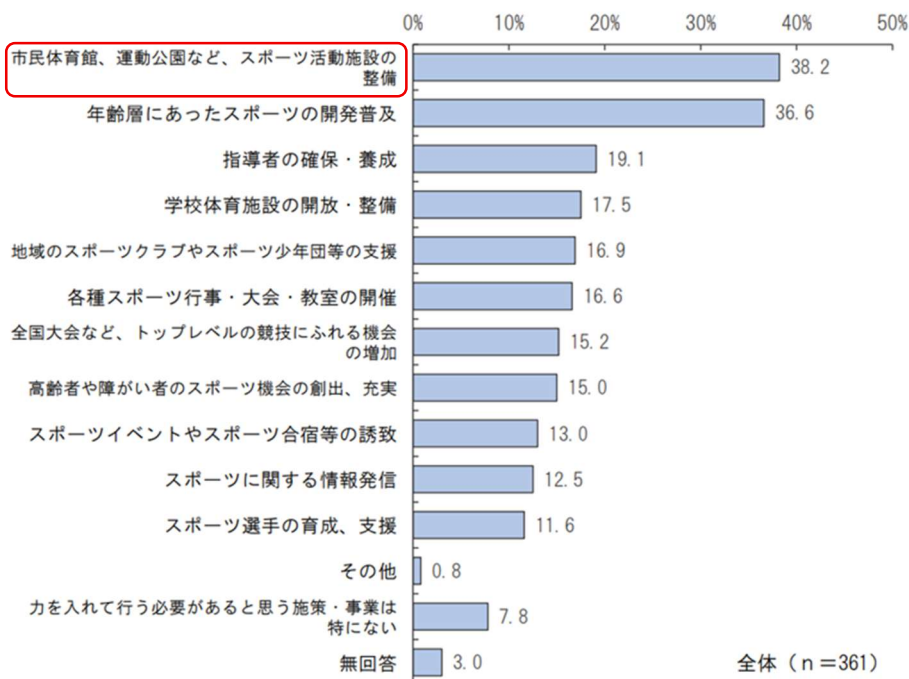
### 令和6年度裾野市教育に関するアンケート

#### ③スポーツ活動について(3つまで○)



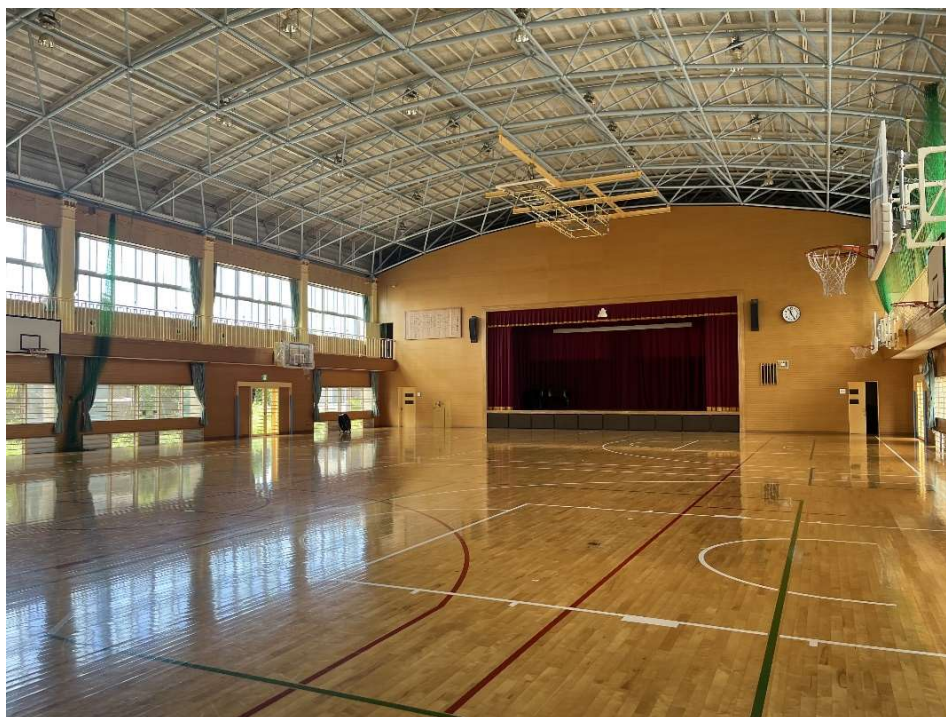
### 令和元年度裾野市教育に関するアンケート

#### スポーツ活動について(複数回答: 3つまで)



## (2) 学校体育施設開放事業\*の充実

市内学校施設で行っている学校体育施設開放事業\*は、市民の自発的なスポーツ活動の拠点として、また、住民によるまちづくり活動の場として多くの利用があります。学校再編に伴う施設数の最適化を図るとともに、利用者による自主管理を推進し、限られた開放時間・施設容量の中で、増大する需要を調整し、だれもが利用しやすい運営体制の整備に取り組む必要があります。

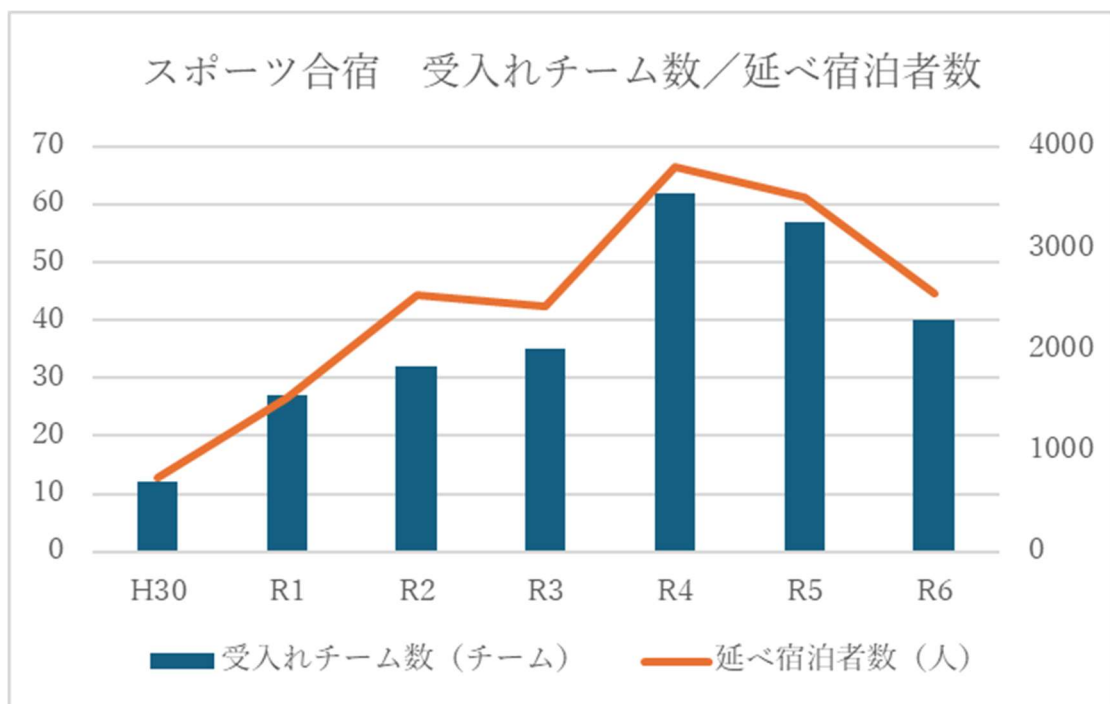


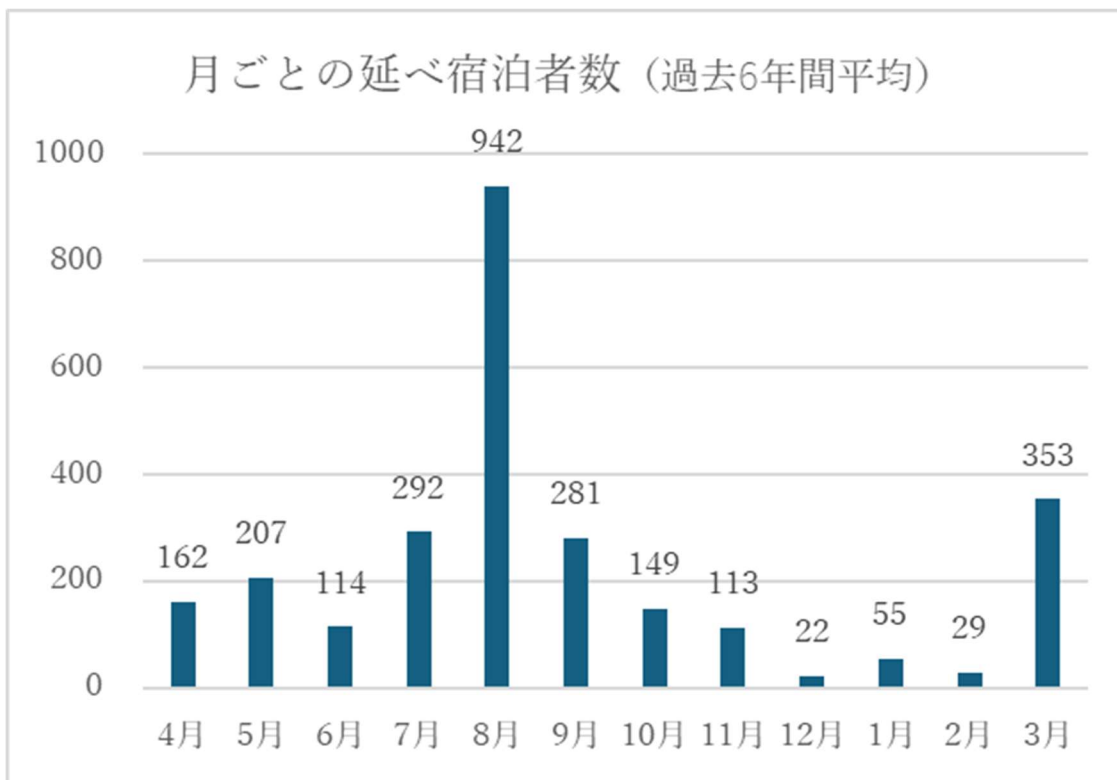
## 4 スポーツツーリズム\*の現状と課題

### (1) スポーツ合宿等の誘致

本市では平成30年3月に官民連携の地域スポーツコミッション「裾野市スポーツツーリズム推進協議会（S-SPO）」を設立し、富士山麓の立地特性を生かしたスポーツ合宿誘致及びスポーツイベントの開催に取り組んでいます。また、令和6年1月には地域おこし協力隊として専門人材を委嘱し、体制強化を図りました。令和6年度のスポーツ合宿の受入れ数は40チーム／延べ宿泊者数2,551人となり堅調に推移するとともに、スポーツイベントの参加者数も3,774人となり、目標の3,300人を越えました。

一方で、合宿受入れは繁忙期と閑散期ではっきりと差があり、中でも8月は受入れが集中し合宿需要の取りこぼしが起きているという課題があり、受入れ時期の平準化及び閑散期の誘客が求められています。





## （２）東京２０２０オリンピック自転車競技ロードレースレガシー\*の創出

本東京２０２０大会を契機に、様々な有形／無形のオリンピック・レガシーが生まれました。これらを適切に保全し継承するとともに、本市及び富士山麓エリアの地域資源として活用し、サイクリストの誘客を図ります。





裾野市が目指すスポーツツーリズム

## 第2章 目標と課題項目の設定

### 1 基本構想

令和8年3月策定の「第3期裾野市教育振興基本計画」でうたわれる基本理念「共に学び、つながり合い、多様な個性を活かしながら、未来を拓く人づくり」を実現するため、市民ひとりひとりがスポーツに親しむことができる環境づくりを目指します。

さらに、地域指導者の育成やスポーツツーリズム\*を促進し、多様性に満ちた市民スポーツの振興、スポーツを通じて裾野市を訪れる人たちとの交流拡大を図ります。

### 2 課題項目

上記の基本構想を達成するため、4つの課題項目を定めます。また、各課題項目達成のため、それぞれ小項目を設定します。

#### (1) 生涯スポーツの推進

年齢性別や障がいの有無、支援の程度にかかわらず、だれもがスポーツを楽しむことができるよう、スポーツ教室の開催等を通じ、市民のスポーツ参加意欲の高揚を図り、市民の自発的なスポーツ活動の育成や関係諸団体への支援を行います。

- ・運動習慣の定着と拡大
- ・子ども\*たちの体力向上
- ・世代や障がいの程度に応じたスポーツ機会の創出、充実
- ・地域スポーツ環境の整備

#### (2) スポーツ関連施設等の基盤整備・充実

市民が安全で快適にスポーツを楽しめる屋外スポーツ基盤の整備や老朽化の進む既存スポーツ施設の計画的な整備・改修・長寿命化を実施し、施設利用者の安全を確保します。また、各スポーツ施設の利用実態を分析し、施設数の最適化を図るとともに、指定管理者制度により民間のノウハウを活かし、施設の利便性向上を図ります。

- ・市内公共スポーツ施設の整備
- ・学校体育施設開放事業\*の充実
- ・屋外スポーツ基盤の整備

### (3) スポーツ団体の育成と部活動の地域展開

部活動の地域展開の実現や市民スポーツの振興を図るため、JSP0 公認スポーツ指導者資格の取得や、「スタートコーチ（ジュニア・ユース）」および「ジュニアリーダーズスクール」の受講を支援します。これらの取組を通じて、市民スポーツや部活動における指導者の育成を進めるとともに、スポーツ指導者バンクへの登録者数の増加を目指します。また、地域スポーツ団体・スポーツ少年団を活用し、スポーツ団体の育成や、地域指導者の育成・確保を目指します。

- ・地域指導者の育成・確保
- ・地域スポーツ団体の育成
- ・部活動の地域展開の円滑な移行及び運営の安定化

### (4) スポーツツーリズム\*の推進

これまでに築かれた裾野市スポーツツーリズム推進協議会（S-SPO）内外の連携体制や諸チームとの関係性を活かし、事業継続します。

合宿受入れ時期の平準化及び閑散期の誘客対策を重点課題として取り組むことで、年間を通じた受入れの拡大を目指します。また、東京2020オリンピック自転車競技ロードレースのレガシーを継承し活用することで、交流人口の拡大を目指します。

- ・スポーツ合宿の誘致やスポーツイベントの開催
- ・東京2020オリンピック自転車競技ロードレースレガシー\*の継承



### 3 計画目標

令和12年度までに以下目標の達成を目指します。また、この目標を達成するために、第3章の各項目において具体目標を設定します。

#### (1) 週1回以上の運動習慣のある市民の割合 70%

(令和6年度 56.5%)

競技スポーツや激しい有酸素運動に限らず、簡単なストレッチやウォーキングでも、定期的に続けることにより体力向上と健康増進につながります。子ども\*から高齢者までスポーツや運動に親しむ機会を充実し、手軽な運動方法や運動ができる場所の情報を発信することで、市民の運動習慣の定着、拡大を目指します。

#### (2) 市内の公共スポーツ施設の年間利用者数 47万人

(令和6年度 402,634人)

市内の公共スポーツ施設を積極的に活用し、スポーツ教室やイベント、人材育成を通じて市民のスポーツ活動の支援を行い、すべての市民が、世代や障がいの有無にかかわらず、スポーツに親しめる環境の創出を目指します。

#### (3) スポーツ指導者バンクの登録者数 47人

(令和6年度 4人)

部活動の地域展開の実現や市民スポーツの振興を図るため、JSP0公認スポーツ指導者資格の取得や、「スタートコーチ(ジュニア・ユース)」および「ジュニアリーダースクール」の受講を支援します。これらの取組を通じて、市民スポーツや部活動における指導者の育成を進めるとともに、スポーツ指導者バンクへの登録者数の増加を目指します。

#### (4) スポーツ合宿受入れチーム数 60チーム

(令和6年度 40チーム)

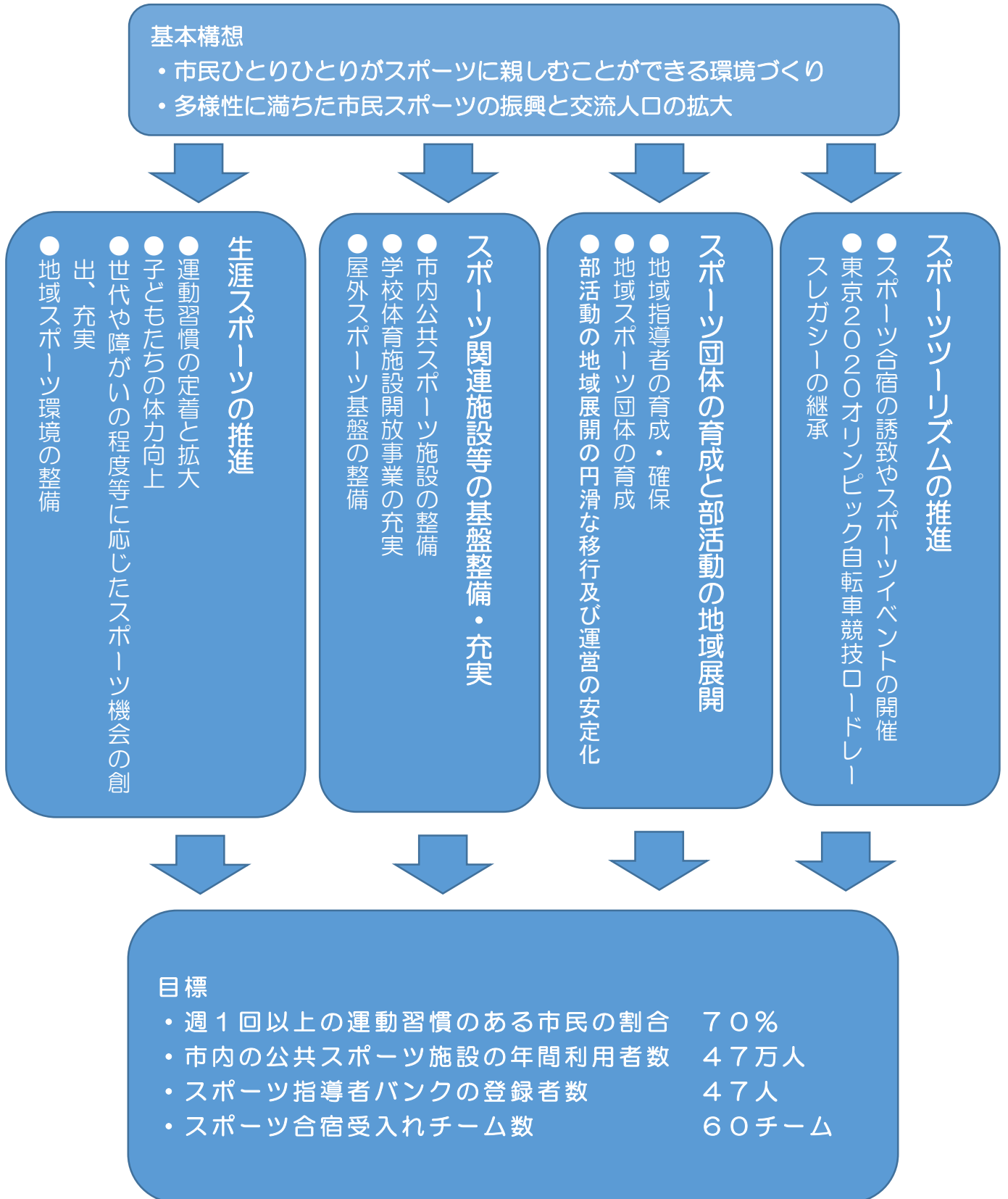
本市の地域資源を活かし、裾野市スポーツツーリズム推進協議会(S-SPO)をはじめとする官民協働の取組を通じて、陸上長距離走などのスポーツ合宿の誘致やスポーツイベント等の開催に取り組みます。

## 4 進行管理

目標の「30分以上の運動を週1回以上行う市民の割合」については毎年度行われる市民意識調査にて、「市内の公共スポーツ施設の年間利用者数」については年度ごとの各施設の延べ利用者数の合計にて、スポーツ指導者バンクの登録者数は年度ごとの登録者数の集計にて、また「スポーツ合宿受入れチーム数」については、裾野市スポーツツーリズム推進協議会（S-SPO）による集計にて目標達成度を判断します。

本計画の推進にあたっては、積極的に情報発信に努め、行政だけでなく、地域住民、スポーツ団体、企業、学校など多様な主体との協働や、近隣自治体・関係機関と広域的な連携を図り、より効果的なスポーツ環境の整備を目指します。また、スポーツ推進審議会による進捗状況の点検・評価を行い、その後の施策展開に反映させるよう努めます。

## 第3期裾野市スポーツ推進計画目標フロー図



## 第3章 施策の展開

### 1 生涯スポーツの推進

#### (1) 運動習慣の定着と拡大

- ① 年齢・体力に関係なく楽しめるレクリエーション\*スポーツを活用し、市民大会や体験会を通じて運動習慣の定着を図ります。【生涯学習課】

各地区で開催するスポーツ教室を、レクリエーション\*スポーツ等の幅広い年齢層の市民が参加できる内容にし、運動習慣の定着と拡大を目指します。

- ② 手軽にできるウォーキングを習慣化するために市内ウォーキングコースやウォーキング事業の周知を図ります。【健康推進課】

(関連計画：すその健康増進プラン)

ひとりでも気軽に楽しめるウォーキングを習慣化するために、市公式ウェブサイトや広報紙に市内ウォーキングコースや運動教室について情報を掲載し、市民の運動への取り組みを支援します。

#### ●具体目標

- ・スポーツ推進員と協力し、5地区のスポーツ教室を各地区年間20回以上開催することを目指します。  
(例 スポーツ教室西会場、東地区エンジョイスports教室等)
- ・市ウェブページ等に情報紹介ページを設け、年1回以上更新します。  
(例 寄り道ウォーキング)

#### (2) 子ども\*たちの体力向上

- ① スポーツ少年団等の活動を支援し、子ども\*が自分のレベル・目標に合わせた運動やトレーニングが行える場の充実を目指します。【生涯学習課】

技術の向上を目的としたスポーツ少年団やクラブチーム、楽しみながら体を動かし、スポーツに取り組むきっかけを提供するスポーツ教室等の活動を支援し、子ども\*が自身のレベル・目標に合わせて活動することができる場の充実を目指します。また、子ども\*向けのさまざまなトレーニング手法や先進的事例の情報収集に努め、研究するなどし、子ども\*たちの健康増進に取り組み、同時に健康な心を培い、頑張る力、持続する力を養います。

## ② 幼児期のスポーツ体験機会の充実を目指します。【生涯学習課】

幼児期の体を動かした遊びの経験は、将来、スポーツを継続的に行うための大切な要素となります。子ども\*たちが運動習慣を身につけるために、スポーツ団体や各種団体、民間事業者と連携し、幼児期から必要な多様な動きの獲得や体力・運動能力を培うことができるよう、運動遊び等のスポーツ体験機会の充実を目指します。

## ③ 子ども\*たちがトップレベルのプレーに親しむ機会の創出に努めます。【生涯学習課】

プロアスリートのスキルを目の前で見ることや、話を聞くこと等、「ほんもの」と触れ合うことで子ども\*たちのスポーツに対する意欲と競技力の向上に大きく寄与します。子ども\*たちがスポーツに対する好奇心を高め、将来への夢や希望を持って成長できるよう、トップレベルのプレーを間近に体験することができる機会を創出します。

### ●具体目標

- ・子ども\*がスポーツと触れ合う機会や場を醸成するために、地域スポーツの基礎になるスポーツ少年団の団員数を増やすことを目指します。
- ・子ども\*の基礎的運動能力の向上を目指すため、成長段階に応じた教室を企画し、定期的な開催を目指します。  
(例 幼稚園・保育園の運動教室)
- ・子ども\*たちがアスリートや著名指導者と触れ合うイベントを、年間1回以上開催することを目指します。  
(例 プロ選手によるサッカー教室)

## (3) 世代や、障がいの程度等に応じたスポーツ機会の創出、充実

### ① 幅広いニーズに対応するスポーツ教室を実施し、さまざまな年齢層の市民がスポーツを通して交流できる場の創出を目指します。【生涯学習課】

現在、スポーツの場においてもさまざまな要望やニーズが生まれています。スポーツ教室に関しては、内容、実施日時、周知方法等を工夫した多彩なプログラムを提供するとともに、安全・安心を基盤としたサービスの向上に努め、幅広い年齢層の市民がスポーツを通じて交流できる場を創出し、生涯スポーツの推進を目指します。

**② 子ども\*から高齢者まで、親子や次の世代への繋がりを促進するスポーツ機会の創出を目指します。【生涯学習課】**

世代間の交流を促すことを目的とし、子ども\*から高齢者までが参加できる地域のスポーツイベントを定期的で開催し、スポーツを通じて地域の活性化を目指します。

**③ スポーツを行う習慣が少ないビジネスパーソンや子育て世代も自然に体を動かせる機会の創出に努めます。【生涯学習課】**

仕事や家事、育児が忙しくなるとスポーツから離れてしまう状況が見られます。運動不足になりがちな働き盛りの世代や子育て世代が、仕事や家事、育児によりスポーツをする習慣を絶たれることのないよう、長時間や定期的な参加を前提としない、短時間で気軽に参加できる取組や、日常生活の中で無理なく参加しやすい運動機会の提供など、多種多様なニーズに合わせたスポーツ機会の創出を目指します。

**④ 65歳までを対象とした健康づくり教室等を開催します。【健康推進課】**

(関連計画：すその健康増進プラン)

若いころから運動を行うことは、高齢になった際にも健康な体を維持するために非常に重要です。指定管理者と連携し、65歳までを対象としたウォーキング教室や初心者のための体操教室等の健康づくり教室を開催し、将来の運動機能低下の予防を図ります。

**⑤ 介護予防サロン\*や高齢者向けの介護予防教室などを開催し、高齢者の運動機能の維持向上に努めます。【介護保険課】**

(関連計画：裾野市介護保険事業計画)

加齢からくる運動機能低下や、それらにより引き起こされる転倒・骨折や閉じこもりからくる更なる機能低下を起こさないようにするため、介護予防サロン\*や運動教室等を展開し、高齢者の運動機能の維持向上に努めます。

**⑥ 障がい者が安全に運動できる場所や機会を確保し、障がいの程度等に合わせたスポーツ指導が行える人材の確保・育成に努めます。【総合福祉課】**

(関連計画：すそのふれいあいプラン（第5次裾野市障がい者計画、第7期裾野市障がい福祉計画、第3期裾野市障がい児福祉計画）)

障がい者スポーツ\*を推進するため、障がい者団体等と協力し、障がい者が安全にスポーツに取り組める運動環境の整備を目指します。

また、障がいの程度等に合わせた適切な指導を行える指導者の確保・育成に努めます。

**⑦ 障がい者と健常者のスポーツを通じての交流を支援します。【総合福祉課】**

(関連計画：すそのふれいあいプラン（第5次裾野市障がい者計画、第7期裾野市障がい福祉計画、第3期裾野市障がい児福祉計画）)

障がい者と健常者が共に手を取り合い、協力して社会を作り上げていくことは、今後取り組むべき重要な課題のひとつとなっています。地域や関係団体と協力し、スポーツを通しての交流をさらに支援できるよう努めます。

**⑧ 障がいの有無、年齢、性別、文化的背景に関係なく、だれもが参加できるインクルーシブスポーツ\*の推進を図ります。**

スポーツ施設でのアーバンスポーツ\*の実施や障がい者向け軽スポーツ教室の開催、パラスポーツ指導員巡回指導の受け入れ等、県と連携し、インクルーシブスポーツ\*の地域展開を図ります。

**●具体目標**

- ・企業等と連携し、年齢や体力に関係なく、いつでも、どこでも楽しむことができ、だれとでも気軽に取り組むことができるスポーツ・レクリエーション\*活動を行える教室の講座数を維持することを目指します。
- ・世代間で交流が出来る地域イベントの開催を行います。  
(例 モルック教室)
- ・ビジネスパーソンが休憩時間や終業後に気軽に取り組むことができるスポーツの情報を提供します。また、親子で参加できる教室の開催や、託児環境の整備など、子育て世代もスポーツをしやすい環境整備に努めます。
- ・65歳までを対象とした講座・教室の年間延べ参加者3,500人を目指します。(令和6年度3,489人)
- ・65歳以上を対象とした介護予防サロン\*、教室等における機能維持向上のための講座開催を年間120回実施するよう目指します。(令和6年度 112)

回)

- ・障がい者を対象とし、体力の維持増進、社会参加、相互交流、余暇等の機会を提供するため、月1回障がい者スポーツ教室を開催します。
- ・教室の運営を事業委託し、障がい者スポーツ指導者の配置を確保します。
- ・教室参加者を増やすため、広く周知を図ります。
- ・静岡県障害者スポーツ大会や身体障がい者野球大会ドリームカップ\*への出場の推進・周知を行い、スポーツの力でつくる共生社会を目指します。また、令和2年12月2日に裾野市は（一社）日本パラサイクリング連盟と、「障がい者スポーツ振興によるまちづくりに関する包括連携協定」を締結し、障がい者スポーツ人口の拡大や、障がいへの理解促進に繋がります。
- ・スポーツ施設でのパラスポーツ指導員巡回指導の年1回以上の受け入れを目指します。

#### （4）地域スポーツ環境の整備

- ① **スポーツを通じた仲間づくりを目的にスポーツ教室やイベントを開催し、市民が楽しみながらスポーツを行い、社会参加できるよう支援します。【生涯学習課】**

スポーツをとともに行う仲間をつくることは、スポーツをより楽しみながら行えるだけではなく、社会参加や地域コミュニティの形成にもつながります。スポーツの仲間づくりを支援することで、スポーツの輪、地域の輪が広がるよう努めます。

- ② **地域交流の促進および地域の活性化を目的に、市民が主体的に行うスポーツ活動の創出を支援します。【生涯学習課】**

子ども\*から高齢者までが一緒に楽しめるスポーツの定期的開催を目指します。また、市民団体が企画するスポーツ大会や交流イベントに対して、行政が後援・広報支援・物品貸出などを行います。

- ③ **地域で活躍するリーダー育成を目的として、スポーツ推進委員\*の資質向上を図ります。【生涯学習課】**

スポーツ推進委員\*は、スポーツを推進する事業の実施における連絡や調整、地域住民に対する実技の指導や助言を行い、スポーツ施策を活発化させる役割を担っています。地域におけるスポーツ活動の充実を図るため、地域住民のニーズを

踏まえたスポーツのコーディネーターという役割に対応できるよう、スポーツ推進委員\*の資質向上を図ります。

**④ スポーツ選手のモチベーションアップや技術向上を目的とし、各競技のトップアスリートや現役引退選手を招聘し、講演会や実技講習会を行う機会を創出します。【生涯学習課】**

競技力を向上させ、スポーツ選手を育成するためには、競技技術だけではなく、メンタルトレーニングやモチベーションアップの方法も合わせて指導していくことが求められます。

選手のモチベーションアップや技術の向上を目的とし、パートナーシップ協定を締結している企業等と連携し、各競技のトップアスリートや、現役を引退し現在はセカンドキャリアを歩んでいるアスリートを招聘し、講演会や実技講習会、交流会等を開催することで「ほんもの」と触れ合う場を創出します。

**⑤ スポーツ観戦を通じて、地域の誇りや一体感を育み、スポーツ文化の醸成と地域活性化を促進します。【生涯学習課】**

パートナーシップ協定を締結している企業等と連携し、観戦機会の拡充、広報紙などによる情報発信の強化、選手とのふれあいイベントの開催などを通じて、地域の誇りや一体感を育む場づくりを促進します。

**⑥ 頑張る市内のスポーツ選手の活動を応援し、トップアスリートの育成を目指します。【生涯学習課】**

競技力を向上させ、スポーツ選手を育成するために、国際大会や全国大会等に出場する団体や選手に対し奨励金の交付や、横断幕の掲示等、大会参加や競技に取り組む意欲の醸成を図ります。。

**⑦ ICT\*を活用したスポーツ機会の創出を目指します。**

デジタル交流スペースとしてeスポーツ\*やVRスポーツ\*等を体験できるコーナーを公共施設に設置し、「スポーツをする」だけでなく、「観る」、「つながる」場としての活用を目指します。

## ●具体目標

- ・スポーツ推進員と協力し、5地区のスポーツ教室を各地区年間20回以上開催することを目指します。  
(例 スポーツ教室西会場、東地区エンジョイスports教室等)
- ・市民団体が企画するスポーツ大会や交流イベントの年1回以上の開催を目指します。
- ・スポーツ推進委員\*の資質向上を図るための講習会を定期的に行います。また、国や県が開催する研修会への積極的な参加を促します。  
(例 県スポーツ推進委員実技研修会、県スポーツ推進委員研究大会等)
- ・スポーツ選手が最新の技術や知識を学ぶための講演会や講習会等のイベントを、年間1回開催することを目指します。
- ・パートナー企業との連携企画を年間3件以上実施します。  
(例 サンクスサポートデー)
- ・市公式ウェブサイト等で奨励金についての情報提供を行い、スポーツ選手の活動を応援します。また、優秀な成績を修めた選手について横断幕の掲示等で広く周知し、市民のスポーツ意識の醸成を図ります。
- ・公共施設にデジタル交流スペースの設置を目指します。



## 2 スポーツ関連施設等の基盤整備・充実

### (1) 市内公共スポーツ施設の整備

#### ① 市民が快適にスポーツを楽しむことができる環境の整備を目指します。【生涯学習課】

各スポーツ施設の整備について、利用実態を分析し、様々な年代のあらゆる市民がスポーツに対する興味や関心を持ち、多様な競技に親しめるよう、学校再編後の施設の利活用や、指定管理者と連携し関連施設の整備・施設数の最適化を図ります。

#### ② インクルーシブ\*な施設整備を目指します。

インクルーシブ\*なスポーツ環境の整備に向けて、アーバンスポーツ\*の実施が可能な施設の整備を進めるとともに、施設のユニバーサルデザイン化\*を図り、だれもが使いやすい利用環境の構築を推進します。

#### ●具体目標

- ・老朽化の進む既存スポーツ施設の計画的な整備・改修・長寿命化を実施し、施設利用者の安全を確保します。また、各スポーツ施設の利用実態を分析し、施設数の最適化を図るとともに、指定管理者制度により民間のノウハウを活かし、施設の利便性向上を図り、スポーツ施設の年間利用者延べ35万人を目指します。(令和6年度 312,652人)
- ・スポーツ施設のユニバーサルデザイン化\*や、案内表示に順次ピクトグラム\*を併用するなど分かりやすい案内に努めます。

### (2) 学校体育施設開放事業\*の充実

#### ① 学校体育施設開放事業\*により、既存の施設を有効活用し、広く市民にスポーツに親しむ機会を提供します。【生涯学習課】

学校再編の進捗状況に合わせ、市内小中学校の運動場と体育館を、学校教育に支障のない範囲で、地域の身近なスポーツ施設として開放します。地域スポーツ活動に必要な備品の整備や消耗品の購入、体育館の空調設備の整備等、施設の機能充実に努めます。

### ●具体目標

- ・学校体育施設の年間利用者延べ12万人以上を目指します。  
(令和6年度 89,982人)

## (3) 屋外スポーツ基盤の整備

### ① 市民が安全で快適にスポーツを楽しめる屋外の基盤整備に努めます。【生涯学習課】

アーバンスポーツ\*を楽しめる場づくりや、サイクリングコース整備やランニング・ウォーキングコース整備等、屋外の基盤整備に努め、健康増進・地域交流・観光資源活用を進めます。

### ●具体目標

- ・スポーツを通じて人が自然に集まれる場所の創出に努めます。



### 3 スポーツ団体の育成と部活動の地域展開

#### (1) 地域指導者の育成・確保

- ① 地域スポーツ団体・スポーツ少年団を活用し、指導者の育成・確保を目指します。  
【生涯学習課】

JSP0 公認スポーツ指導者資格の取得や「スタートコーチ（ジュニア・ユース）」や「ジュニアリーダースクール」の受講などの支援を通じて、市民スポーツや部活動の指導者の育成及びスポーツ指導者バンクの登録者数の増加を目指します。

#### (2) 地域スポーツ団体の育成

- ① NPO 法人裾野市スポーツ協会や NPO 法人アクティブすその活動について、広報紙や市公式ウェブサイトなどを利用して積極的に情報発信を行い、団体への加盟促進を支援します。【生涯学習課】

NPO 法人裾野市スポーツ協会に加盟することで、施設利用料の割引、スポーツ教室への参加、大会開催時の補助など、さまざまなメリットがあり、これらの活動内容を市の広報紙や公式ウェブサイト等を活用し、積極的な情報発信を行うことで、加盟者の増加を図ります。

#### (3) 部活動の地域展開の円滑な移行及び運営の安定化

- ① NPO 法人アクティブすそのを核とし、学校やスポーツ団体との連携を図りながら、部活動の地域展開を円滑に進め、展開後の地域クラブが安定的に運営される体制づくりを推進します。【生涯学習課】

地域クラブへの部活動展開後も安定した運営が行えるよう、学校体育施設やスポーツ施設の優先利用の確保、指導者の確保などを進め、NPO 法人アクティブすそのを中心とした支援体制の構築を目指します。

- ② 部活動の地域展開を進めるとともに、NPO 法人裾野市スポーツ協会や NPO 法人アクティブすそのと連携し、市民の生涯スポーツ推進につながる体制の構築を目指します。【生涯学習課】

学校部活動の地域展開に伴い、NPO 法人裾野市スポーツ協会および NPO 法人アクティブすそのが受け皿となる地域クラブの整備を進めるとともに、卒業後も継続してスポーツに親しめる生涯スポーツ環境の構築を図ります。

●具体目標

- ・スポーツ指導者バンクの登録者を増やし、学校やクラブからの依頼に応じて派遣できるよう目指します。
- ・NPO 法人裾野市スポーツ協会への加盟促進を図り、加盟団体数の増加を目指します。
- ・NPO 法人アクティブすそのを中心に令和 9 年夏以降に全ての部活動の休日の地域展開を目指します。

## 4 スポーツツーリズム\*の推進

### (1) スポーツ合宿の誘致やスポーツイベントの開催

- ① **富士山麓の準高地エリア\*を活用したスポーツ合宿や大会の誘致に取り組みます。【産業観光スポーツ課】**

(関連計画：S-SP0 スポーツツーリズム推進戦略)

富士山麓の豊かな自然環境、標高の高さ（準高地）、首都圏からのアクセス等の地域資源を生かしたスポーツ合宿の誘致に取り組めます。

なかでも、市内及び近隣のクロスカントリーコース、トラック（競技場）、ロード（道路）を活用し、陸上長距離競技を中心に誘致を行います。

- ② **スポーツ合宿の適地を目指し、受入れ体制の整備を図ります。また、静岡県や近隣市町との連携を強化します。【産業観光スポーツ課】**

(関連計画：S-SP0 スポーツツーリズム推進戦略)

当市では平成30年3月に、官民連携の地域スポーツコミッション「裾野市スポーツツーリズム推進協議会（S-SP0）」を設立しました。会員であるトレーニング施設や宿泊施設等との協調により、スポーツ合宿受入れ態勢の整備に取り組めます。

また、静岡県の「スポーツコミッション Shizuoka」や、近隣市町で構成する「2市1町スポーツツーリズム推進協議会」との連携を強化します。

- ③ **本市の立地特性を生かしたスポーツイベント等を開催し、スポーツを通じた交流人口の増加を図ります。【産業観光スポーツ課】**

(関連計画：S-SP0 スポーツツーリズム推進戦略)

スポーツ愛好家へのアプローチとして、本市の立地特性を生かしたアウトドアスポーツや陸上競技、自転車競技などのイベントを開催し、本市の持つ魅力的なスポーツ資源や観光資源の効果的な発信につなげるとともに、スポーツ合宿閑散期の交流人口拡大を目指します。

### ●具体目標

- ・令和12年度までに、スポーツ合宿受入れチーム数60チームを目指します。  
(令和6年度40チーム)
- ・令和12年度までに、スポーツイベントの参加者数5,000人を目指します。  
(令和6年度3,774人)

## (2) 東京2020オリンピック自転車競技ロードレースレガシー\*の継承

### ① 有形／無形のオリンピック・レガシーを後世に継承します。【産業観光スポーツ課】

オリンピック・レガシーとして整備された「富士裾野ビクトリーロード」を中心としたモニュメント等を保全し、感動の記憶を継承します。

また、市内のバイシクルピット\*を継続的に供用し、サイクリングコースと併せてPRしサイクリストの誘客を図るとともに、サイクリストからの声を活かしながら受入れ態勢を整備します。

### ●具体目標

- ・レガシーモニュメント等の保全を行います。
- ・バイシクルピット\*の供用及びPRを行います。



**アーバンスポーツ（24，28，29頁）**

BMX、スケートボード、パルクール、インラインスケート、ブレイクダンス、3×3（スリーバイスリー）などといった、都市型スポーツをいう。

**インクルーシブ（28頁）**

障がいの有無、性別、国籍、年齢、性的指向など、多様な背景や特性を持つ人々が、互いの違いを認め合い、尊重し合いながら、共に生きる社会を目指す考え方。

**インクルーシブスポーツ（24頁）**

障害の有無や年齢、性別、文化的背景などに関わらず、誰もが平等に参加できるスポーツ。

**介護予防サロン（23，24頁）**

市内の65歳以上の高齢者を対象とした、簡単な体操やレクリエーションなどを通して、高齢者同士の交流を図る事業。各地区で月1回程度開催している。

**学校体育施設開放事業（3，12，16，28頁）**

学校教育活動に支障のない範囲で、市立小中学校の体育施設を広く開放し、市民のスポーツ活動の振興に資するとともに、地域に開かれた学校づくりを促進するための事業。

**子ども（5，16，18，21，22，23，25頁）**

本計画における「子ども」とは、概ね18歳までの乳幼児期、学童期、思春期の発達段階を想定。

**スポーツ推進委員（9，25，26，27頁）**

市のスポーツ推進のための事業の実施に係る連絡調整や、住民に対するスポーツの実技の指導、その他スポーツに関する指導、助言を行う非常勤職員。

**スポーツツーリズム（3，13，16，17，32頁）**

スポーツ観光を通じ、スポーツイベントの観戦者や参加者と、開催地周辺の観光を融合して、交流人口の拡大や経済波及効果を目指す取り組み。

**障がい者スポーツ（7，10，24頁）**

身体障がいや知的障がいなどの障がいがある人が行うスポーツ。

**地区体育委員会（9頁）**

市の主催する体育事業への協力や、各区で体育祭等の企画・運営をし、スポーツの推進を図る。

**東京2020オリンピック自転車競技ロードレースレガシー（14，17，33頁）**

東京2020オリンピックの開催にあたり作り上げる、またはオリンピックによって生じる有形・無形の次世代へ残すべき遺産。

## **ドリームカップ（25頁）**

平成13年から裾野市運動公園野球場等で開催されている身体障がい者野球大会。参加チームは全国から集まり、市民ボランティアによる実行委員会により運営されている。

## **バイシクルピット（33頁）**

サイクリングの途中で、休憩や自転車のメンテナンスに利用することができる施設。静岡県では、「サイクルスポーツの聖地」の実現を目指し、バイシクルピットの設置に取り組んでいる。

## **ピクトグラム（28頁）**

絵や図を用いて、言葉を使わずに情報を伝えるための記号。

## **富士山麓の準高地エリア（32頁）**

当市には、富士山のふもとの標高1,450メートルの水ヶ塚公園内にあるクロスカン トリーコースを中心に多くのトレーニングコースがあり、スポーツ選手の応援と地域の発展を目指し、準高地トレーニングを推進している。

## **ユニバーサルデザイン（10, 28頁）**

年齢や障がいの有無などにかかわらず、できるだけ多くの人が利用可能であるようにデザインすること。

## **レクリエーション（9, 21, 24頁）**

楽しみとして行われる娯楽、余暇活動。

## **eスポーツ（26頁）**

eスポーツとは、「エレクトロニック・スポーツ」の略で、広義には、電子機器を用いて行う娯楽、競技、スポーツ全般を指す言葉であり、コンピューターゲーム、ビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉える際の名称。

## **ICT（26頁）**

（Information and Communication Technology）の略称。情報や通信に関連した技術の総称。情報通信技術。

## **VRスポーツ（26頁）**

ゲーム機やPC、VR機器などを使い、現実のスポーツを仮想空間（Virtual Reality）で疑似体験したり、身体を動かしながら競い合ったりするスポーツ全般。

### 用語集凡例

- ・ 用語集は、本文中に「\*」を記した語句につき、解説するものである。
- ・ 用語の掲載順は50音順とした。
- ・ 用語の後に付した（ 頁）は、用語の掲載ページを示した。

## 資料2 令和6年度

### 裾野市市民意識調査(抜粋)

#### 調査の目的

裾野市の様々な取り組みに対する市民の意識を把握し、その結果を分析して市政に反映させることを目的としています。

#### 調査の設計

対象者：裾野市在住の満 18 歳以上の方

標本数：1,200 人（無作為抽出）調査方法：郵送配布。郵送またはインターネット回収。調査期間：令和6年6月19日～7月5日

# 回収結果

有効回収数：684件（前年度726件）有効回収率：57.0%（前年度60.5%）  
うちインターネット回答：314件（前年度207件）  
インターネット利用率：45.9%（前年度28.5%）

1

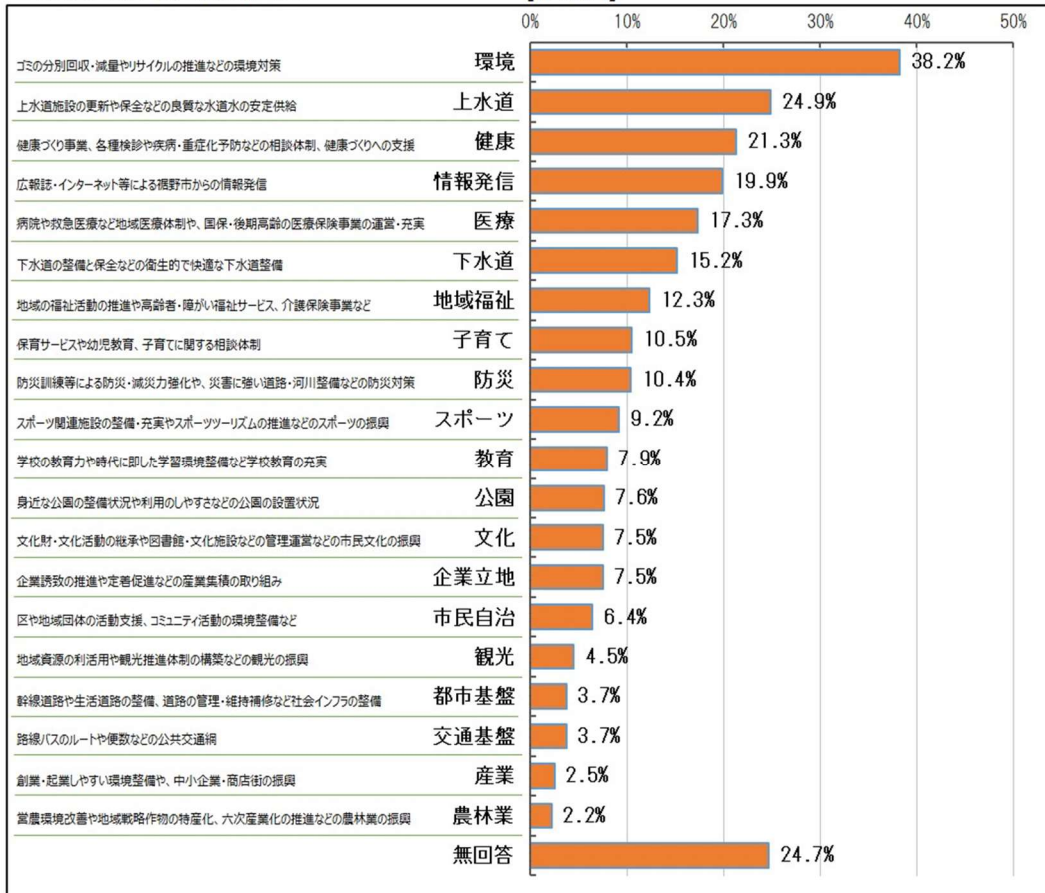
## 留意事項

- ・回答率（%）は、その質問の回答者を基数として算出し、小数第2位を四捨五入しています。  
したがって、比率の数値の合計が100.0%にならないことや、複数の合計が合わないことがあります。
- ・複数回答可の設問は、全ての比率を合計すると100.0%を超える場合があります。
- ・グラフ中の「n（Number of case の略）」は基数で、その質問に回答すべき人数を表しています。
- ・この報告書は単純集計結果と一部のクロス集計のみであり、その他クロス集計や自由記述については別添資料に掲載しています。

## 問9 裾野市の行政サービスのうち、満足している分野を教えてください

### ■令和6年度 調査結果【全体】

【n=684】



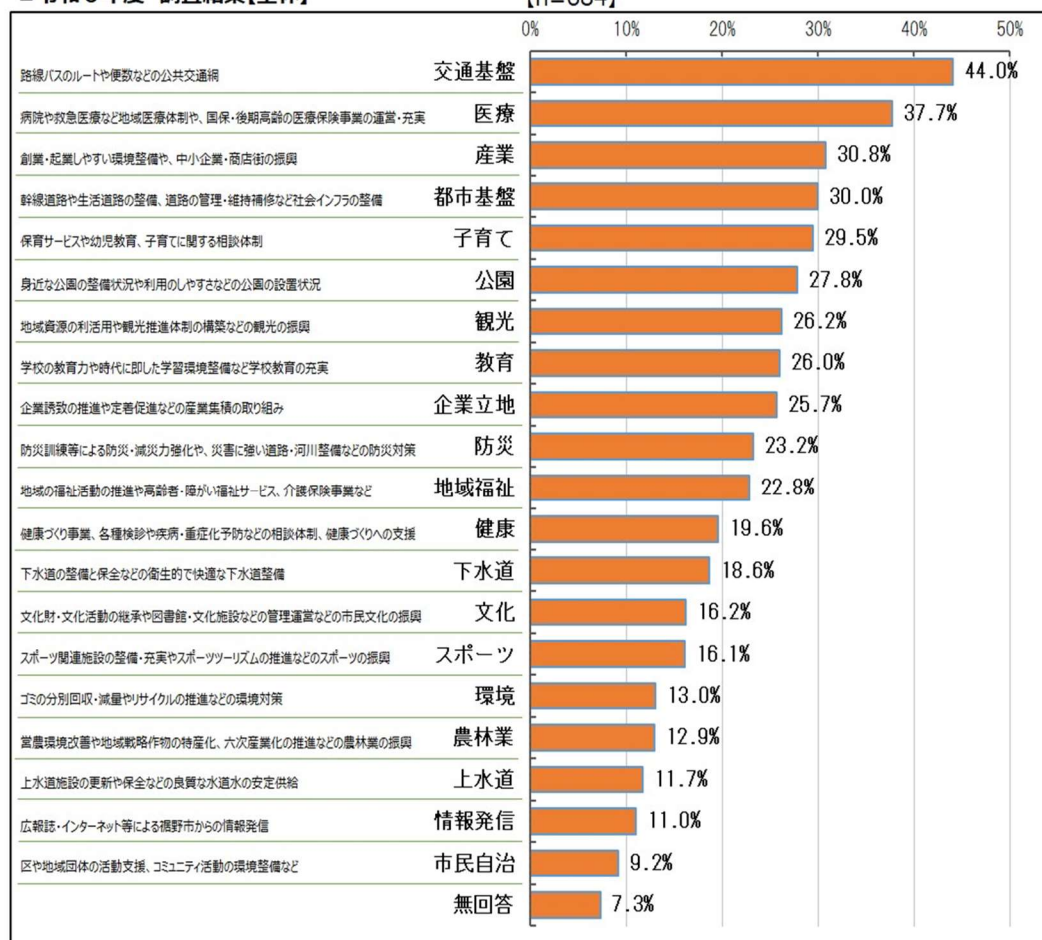
### ■過年度順位比較

順位	R6 (n=684)	R5 (n=726)
1位	環境 38.2%	環境 36.9%
2位	上水道 24.9%	上水道 25.5%
3位	健康 21.3%	健康 24.0%
4位	情報発信 19.9%	医療 20.7%
5位	医療 17.3%	情報発信 16.0%
6位	下水道 15.2%	下水道 15.7%
7位	地域福祉 12.3%	防災 10.5%
8位	子育て 10.5%	地域福祉 10.5%
9位	防災 10.4%	文化 9.2%
10位	スポーツ 9.2%	子育て 9.1%

## 問10 裾野市の行政サービスで今後充実すべきだと思う分野

### ■令和6年度 調査結果【全体】

【n=684】

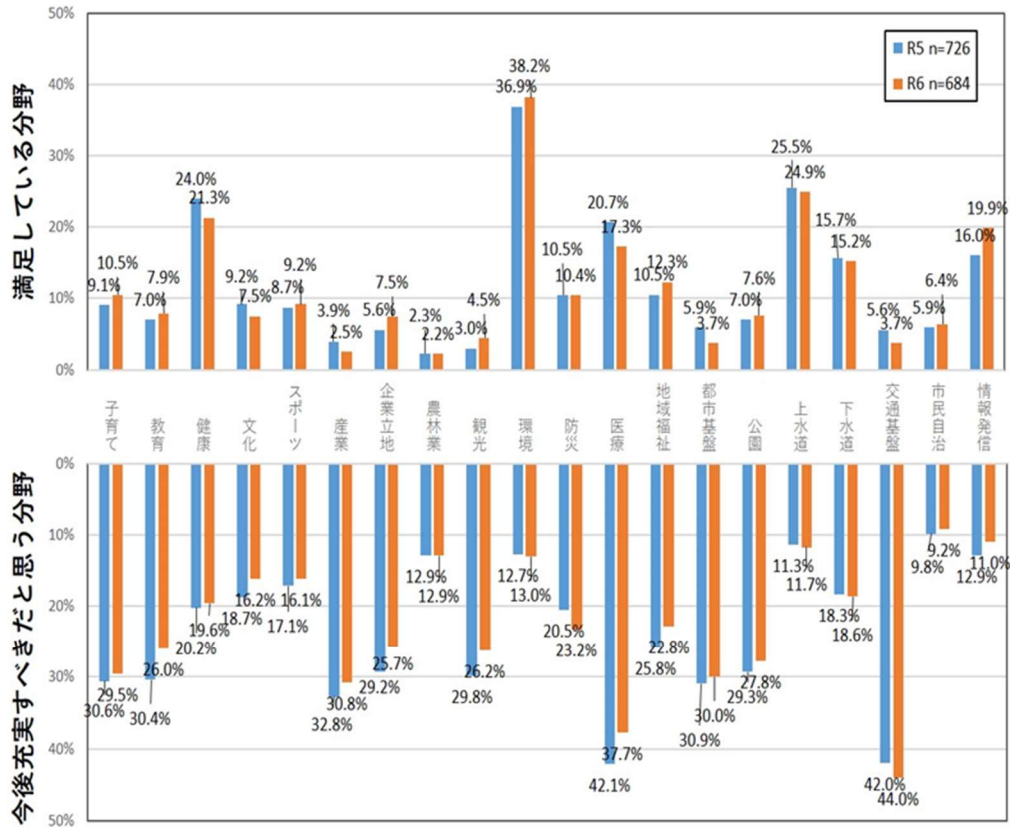


### ■過年度順位比較

順位	R6 (n=684)	R5 (n=726)
1位	交通基盤 44.0%	医療 42.1%
2位	医療 37.7%	交通基盤 42.0%
3位	産業 30.8%	産業 32.8%
4位	都市基盤 30.0%	都市基盤 30.9%
5位	子育て 29.5%	子育て 30.6%
6位	公園 27.8%	教育 30.4%
7位	観光 26.2%	観光 29.8%
8位	教育 26.0%	公園 29.3%
9位	企業立地 25.7%	企業立地 29.2%
10位	防災 23.2%	地域福祉 25.8%

## 問9、問10 裾野市の行政サービス【満足と今後の充実】

■令和6年度 調査結果【全体】、前年度比較



■満足度向上

- 第1位 情報発信 3.9 pt上昇
- 第2位 企業立地 1.9 pt上昇
- 第3位 地域福祉 1.8 pt上昇

■満足度減少

- 第1位 医療 3.4 pt下降
- 第2位 健康 2.7 pt下降
- 第3位 都市基盤 2.2 pt下降

■関心度向上

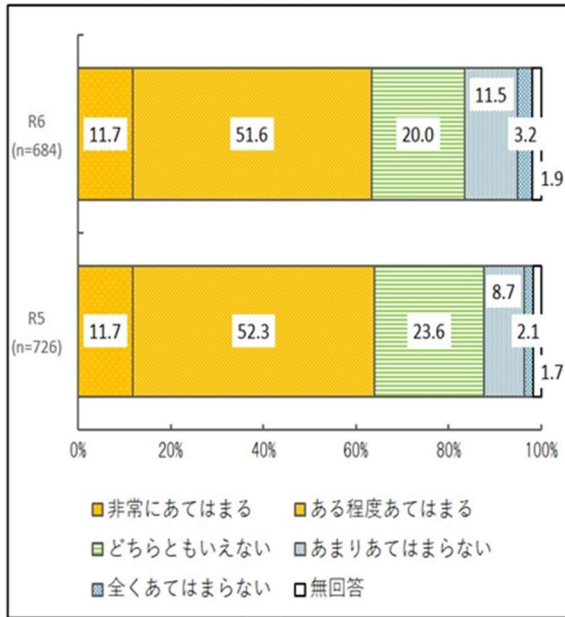
- 第1位 防災 2.7 pt上昇
- 第2位 交通基盤 2.0 pt上昇
- 第3位 上水道 0.4 pt上昇

■関心度減少

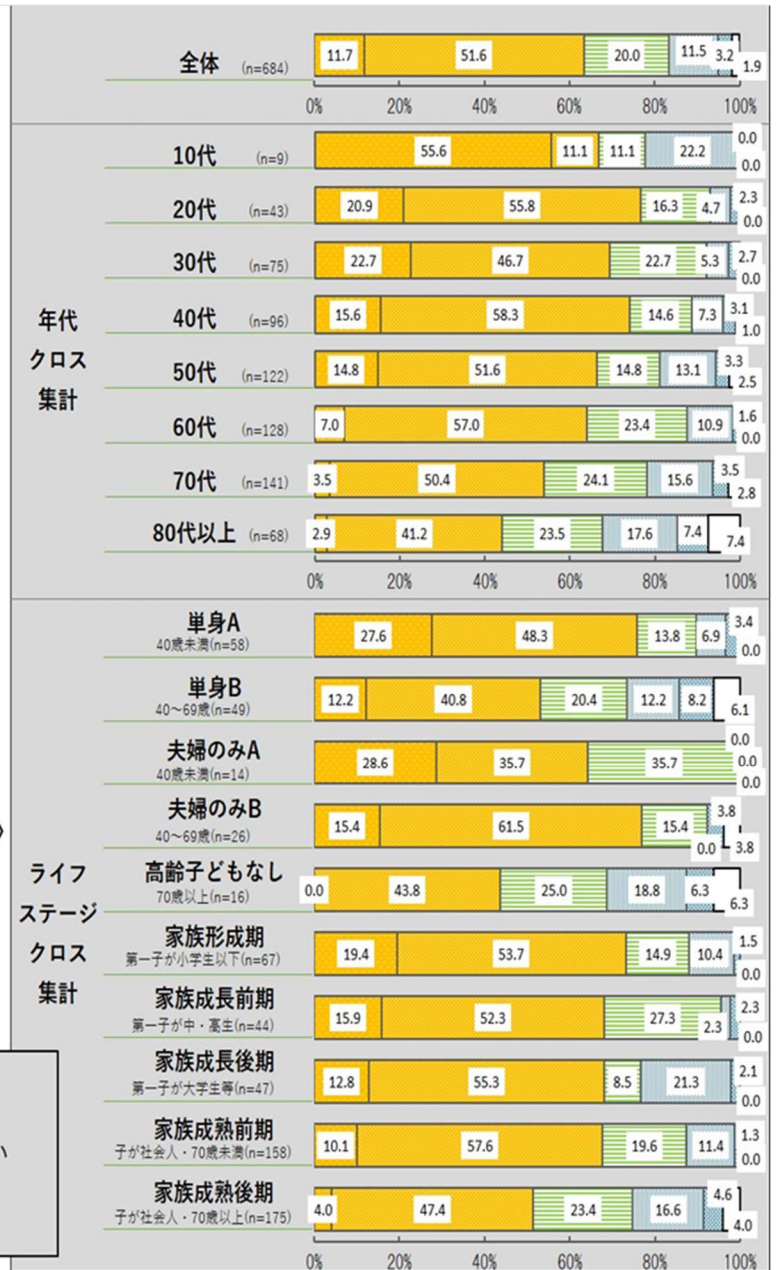
- 第1位 教育 4.4 pt下降
- 第1位 医療 4.4 pt下降
- 第3位 観光 3.6 pt下降

# 問17 身体的に健康な状態である

令和6年度 調査結果【全体】、過年度比較

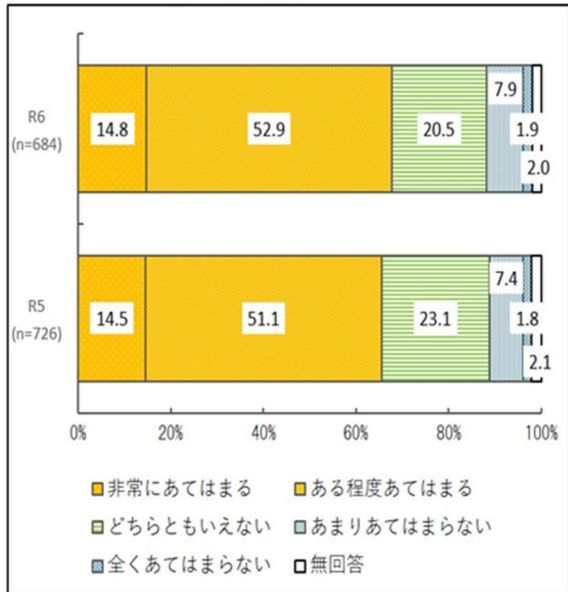


年代・ライフステージ別クロス集計

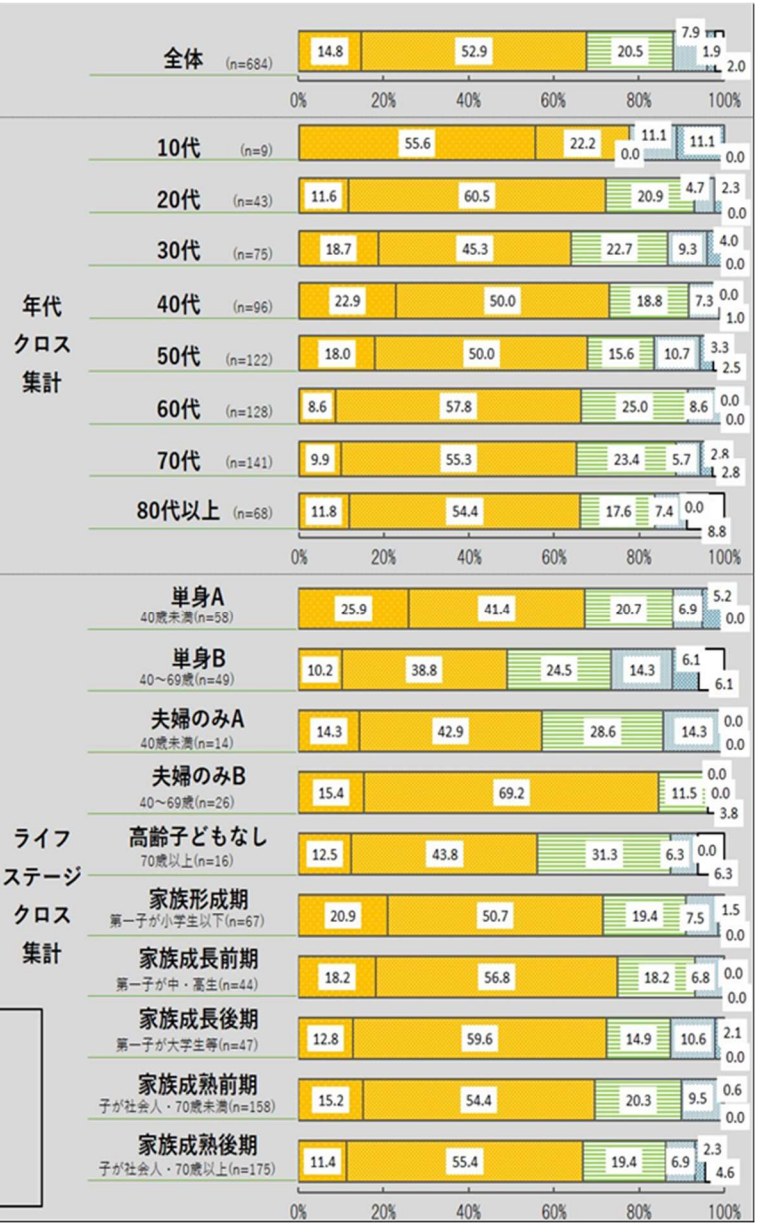


# 問18 精神的に健康な状態である

■令和6年度 調査結果[全体]、過年度比較

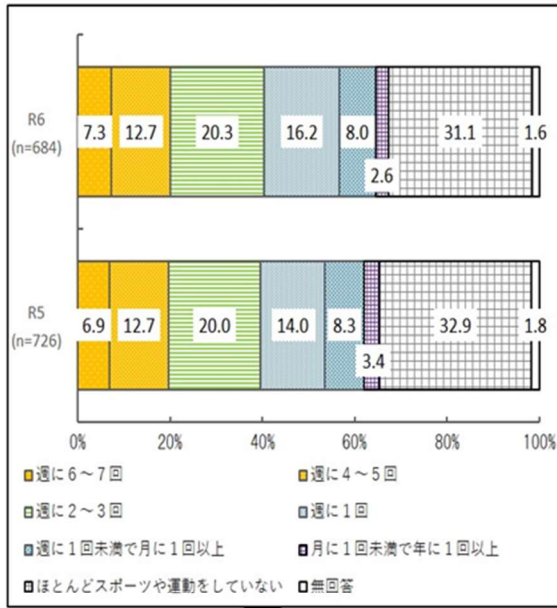


年代・ライフステージ別クロス集計



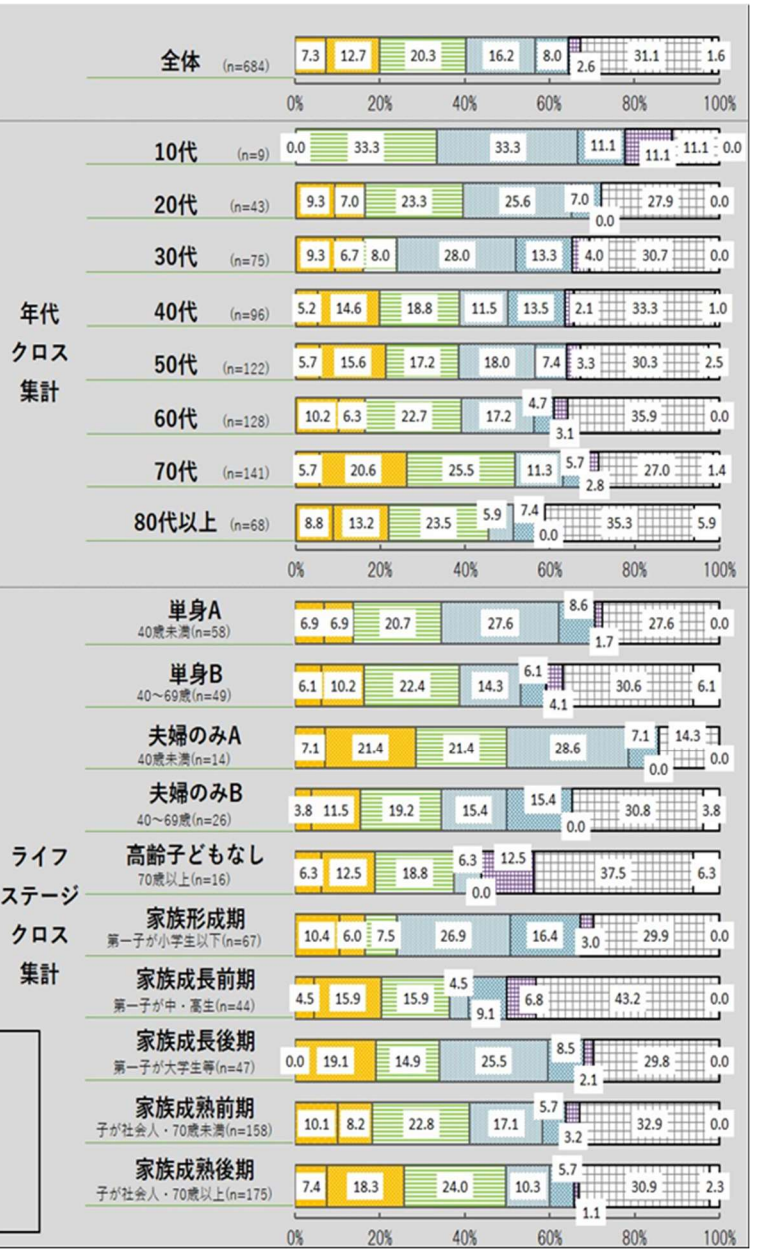
# 問19 この1年間のスポーツや運動の実施の頻度について

■令和6年度 調査結果【全体】、過年度比較



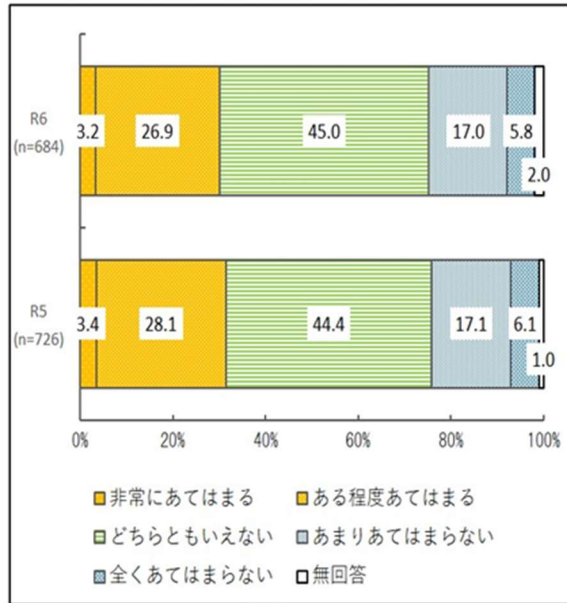
年代・ライフステージ別クロス集計

- 週に6~7回
- 週に4~5回
- 週に2~3回
- 週に1回
- 週に1回未満で月に1回以上
- 月に1回未満で年に1回以上
- ほとんどスポーツや運動をしていない
- 無回答



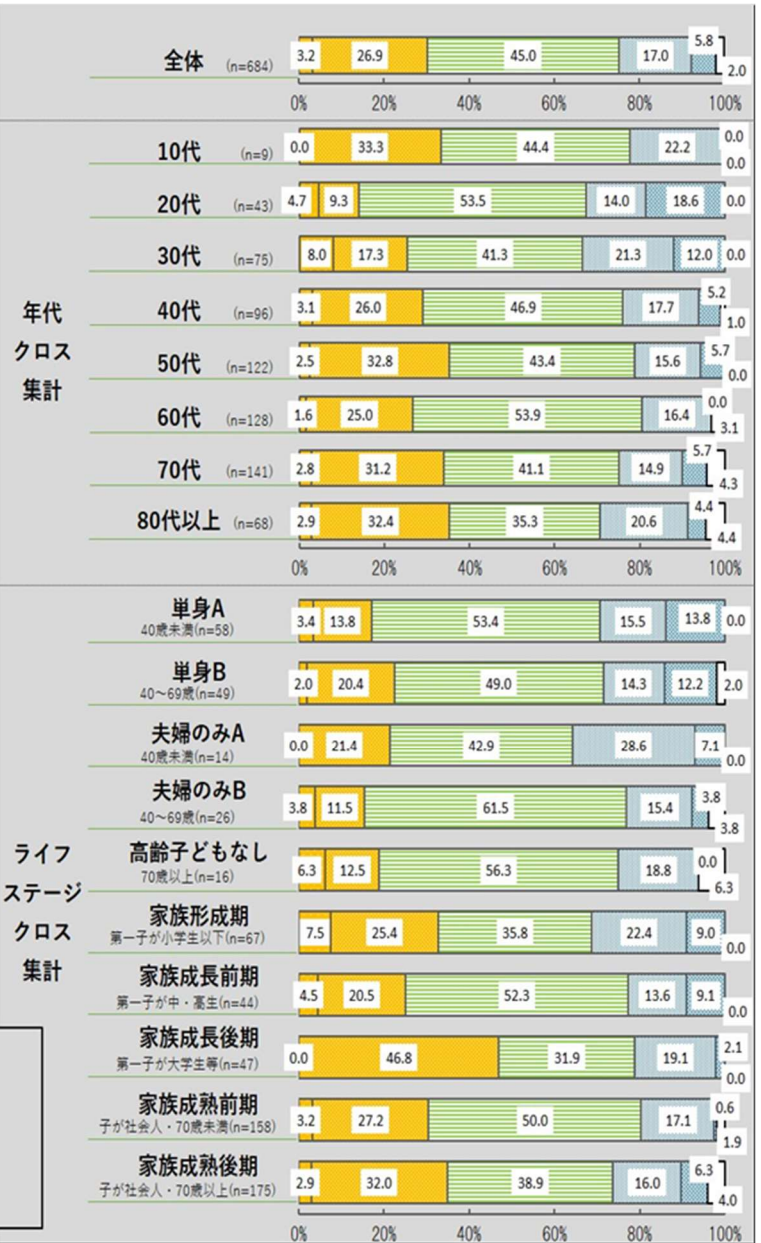
## 問28 地域活動への市民参加が盛んである

■令和6年度 調査結果【全体】、過年度比較



年代・ライフステージ別クロス集計

- 非常にあてはまる
- ある程度あてはまる
- どちらともいえない
- あまりあてはまらない
- 全くあてはまらない
- 無回答



### 資料3 令和6年度裾野市教育に関するアンケート調査（抜粋）

#### I 調査の概要

##### 1 調査の目的

本調査は、裾野市教育振興基本計画を策定するにあたり、計画策定に必要なニーズ等を把握し、今後の教育施策策定のための基礎資料を得ることを目的として、実施したものです。

##### 2 調査対象

【児童・生徒】小学校5年生（430人）、中学校2年生（432人）

【保護者】就学前の児童（年長児）を持つ保護者（329人）

小学校5年生を持つ保護者（430人）

中学校2年生を持つ保護者（432人）

【市民】裾野市在住の18歳以上の市民（800人）

##### 3 調査期間

【児童・生徒】令和6年9月3日～令和6年10月4日

【保護者】令和6年9月3日～令和6年10月4日

【市民】令和6年10月17日～令和6年11月11日

##### 4 調査方法

【児童・生徒】施設配布・施設回収及びWEBによる回答

【保護者】施設配布・施設回収及びWEBによる回答

【市民】郵送配付・郵送回収及びWEBによる回答

##### 5 回収状況

	配布数	有効回答数	有効回答率
児童・生徒	862通	596通	69.1%
小学校5年生	430通	327通	76.0%
中学校2年生	432通	269通	62.3%
保護者	1,192通	708通	59.4%
年長児保護者	329通	223通	67.8%
小学生保護者	430通	274通	63.7%
中学生保護者	432通	211通	48.8%
市民	800通	324通	40.5%

## 6 調査結果の表示方法

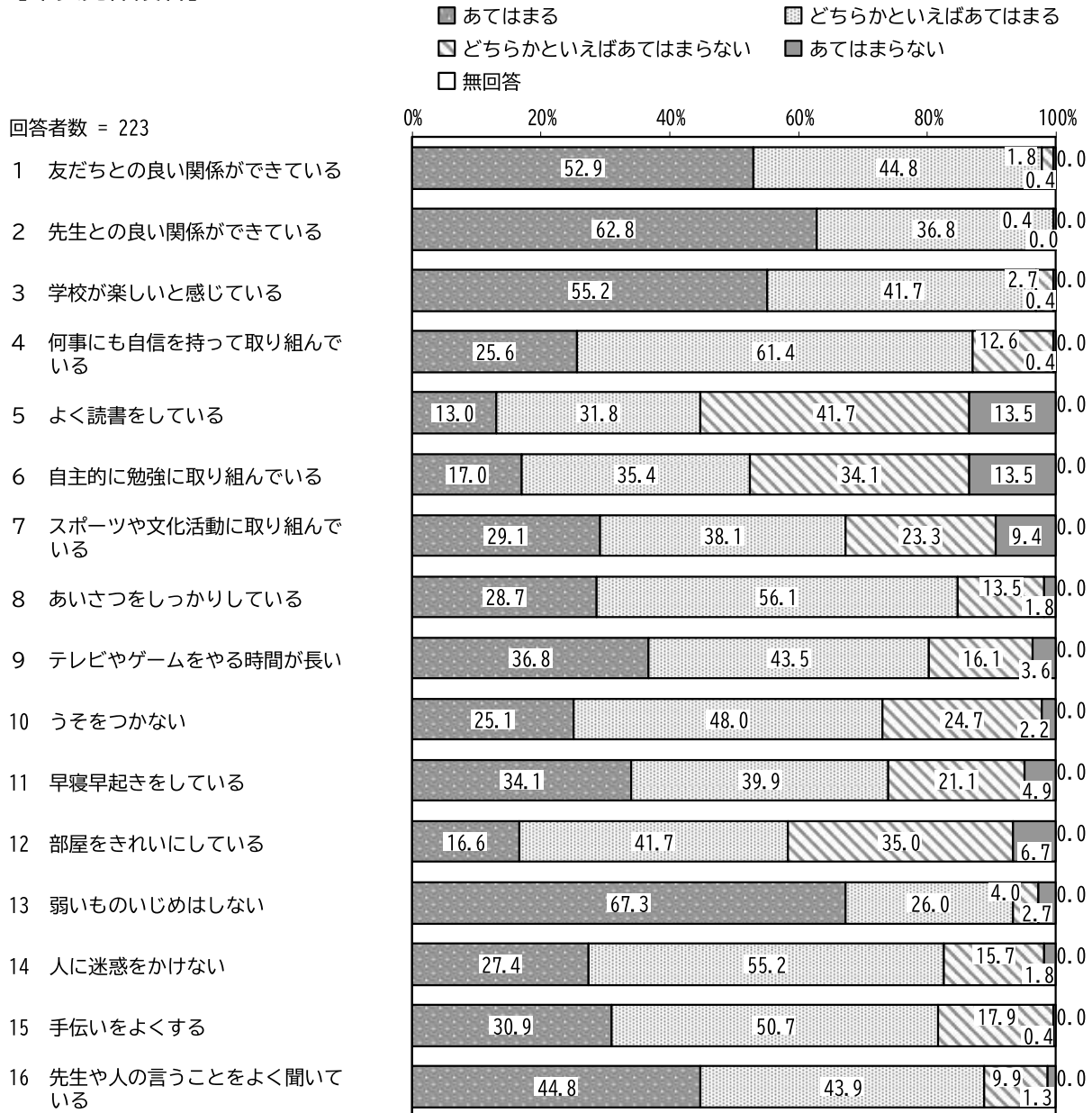
- ・回答は各質問の回答者数を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを網かけをしています。（無回答を除く）
- ・回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。また、クロス集計において回答者数が1桁の場合は、コメントを差し控えています。

## 2 お子さんについて

### (1) お子さんの普段の様子

【問1】 お子さんの普段の様子について、次のことはどの程度あてはまりますか。  
(それぞれ単数回答)

#### 【年長児保護者】



#### 【年長児保護者】

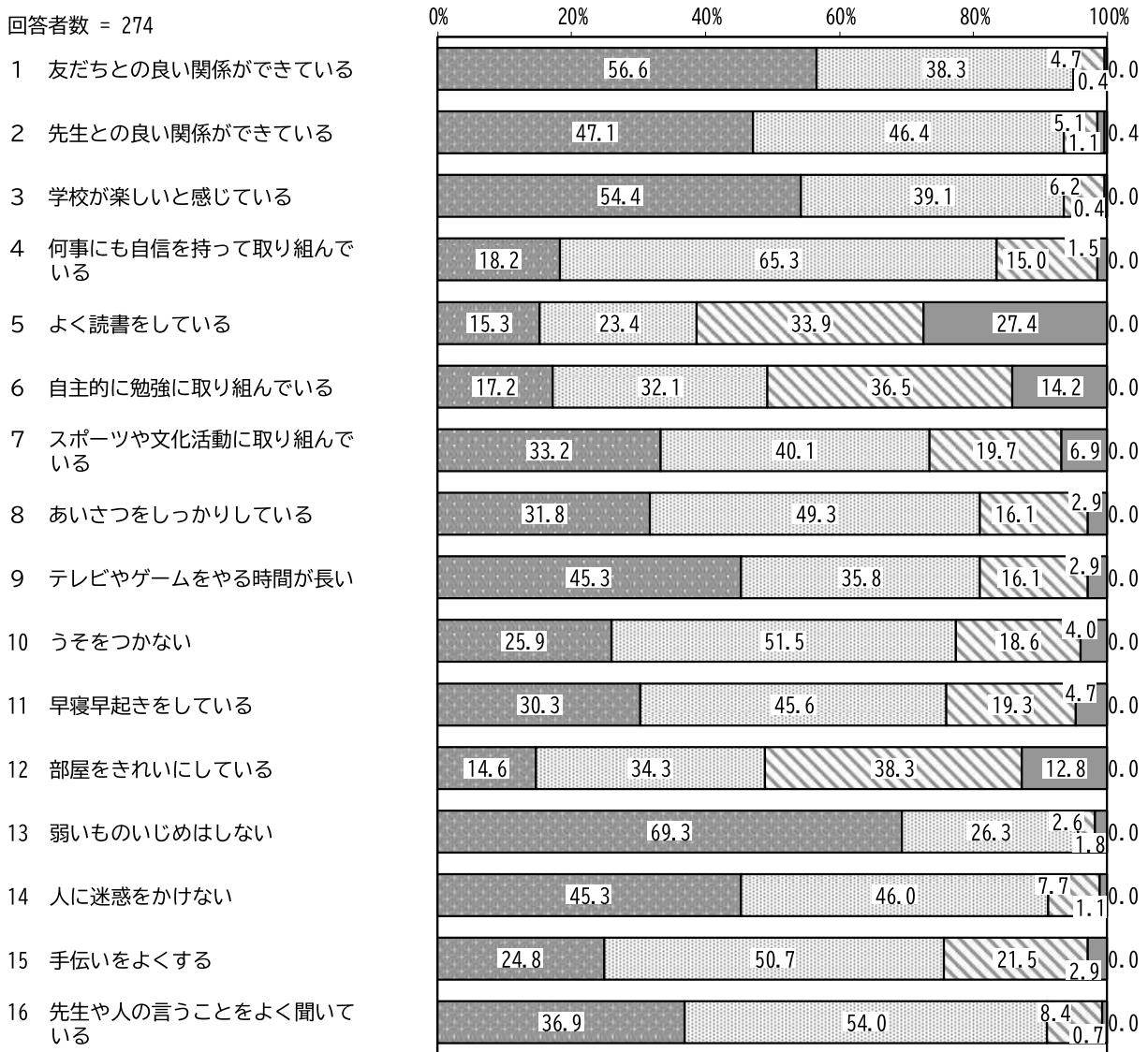
「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた『あてはまる』が最も多いのは「2 先生との良い関係ができています」(99.6%)で、「1 友だちとの良い関係ができています」(97.7%)、「3 学校が楽しいと感じています」(96.9%)が続いている。

一方で、「あてはまらない」と「どちらかといえばあてはまらない」を合わせた『あてはまらない』が最も多いのは「5 よく読書をしている」(55.2%)で、「6 自主的に勉強に取り組んでいます」(47.6%)、「12 部屋をきれいにしています」(41.7%)が続いている。

【小学生保護者】

- あてはまる
- ▨ どちらかといえばあてはまる
- どちらかといえばあてはまらない
- あてはまらない
- 無回答

回答者数 = 274



【小学生保護者】

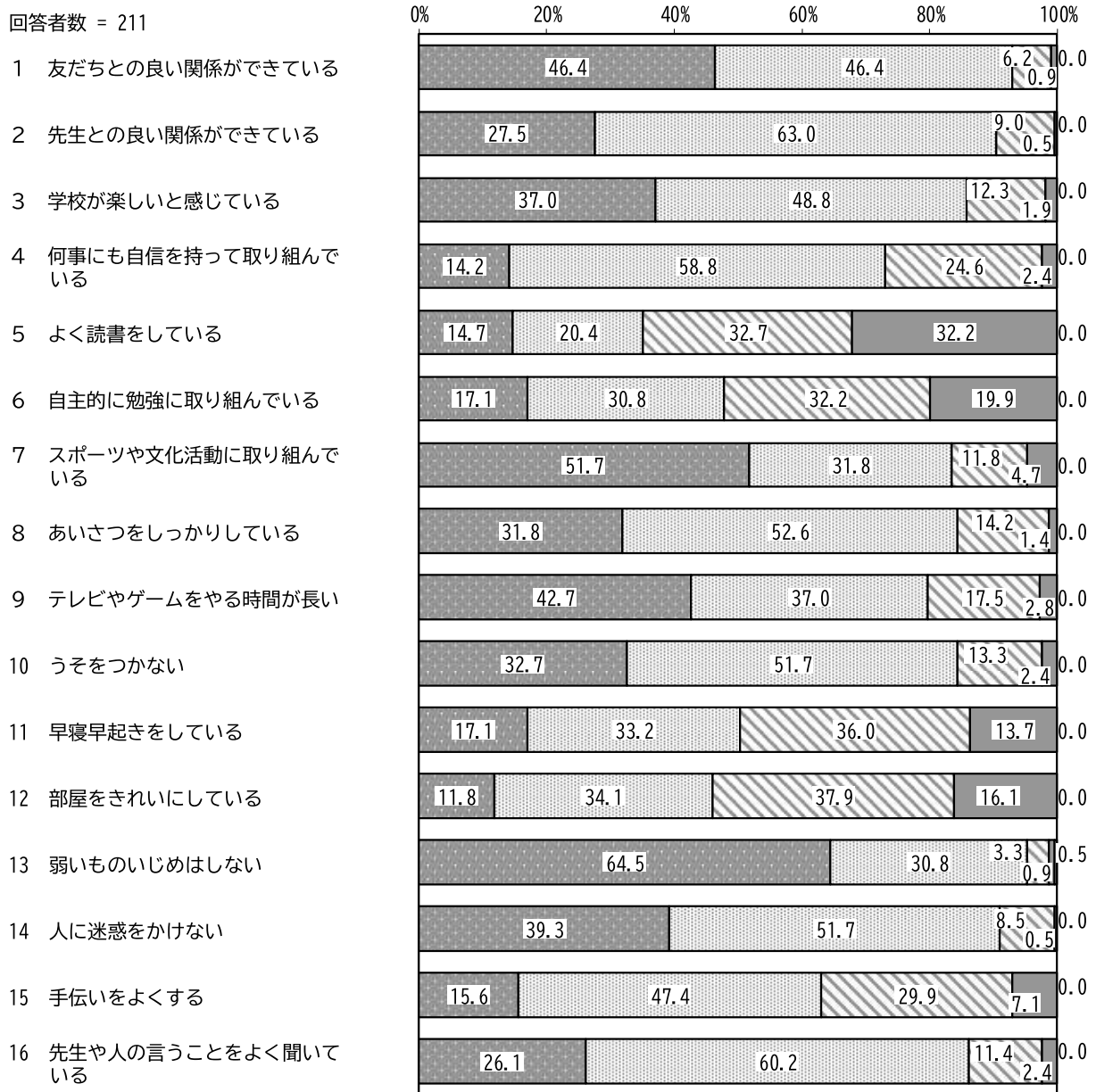
「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた『あてはまる』が最も多いのは「13 弱いものいじめはしない」(95.6%)で、「1 友だちとの良い関係ができています」(94.9%)、「2 先生との良い関係ができています」(93.5%)、「3 学校が楽しいと感じています」(93.5%)が続いている。

一方で、「あてはまらない」と「どちらかといえばあてはまらない」を合わせた『あてはまらない』が最も多いのは、「5 よく読書をしている」(61.3%)で、「12 部屋をきれいにしている」(51.1%)、「6 自主的に勉強に取り組んでいる」(50.7%)が続いている。

【中学生保護者】

- あてはまる
- どちらかといえばあてはまる
- ▨ どちらかといえばあてはまらない
- あてはまらない
- 無回答

回答者数 = 211



【中学生保護者】

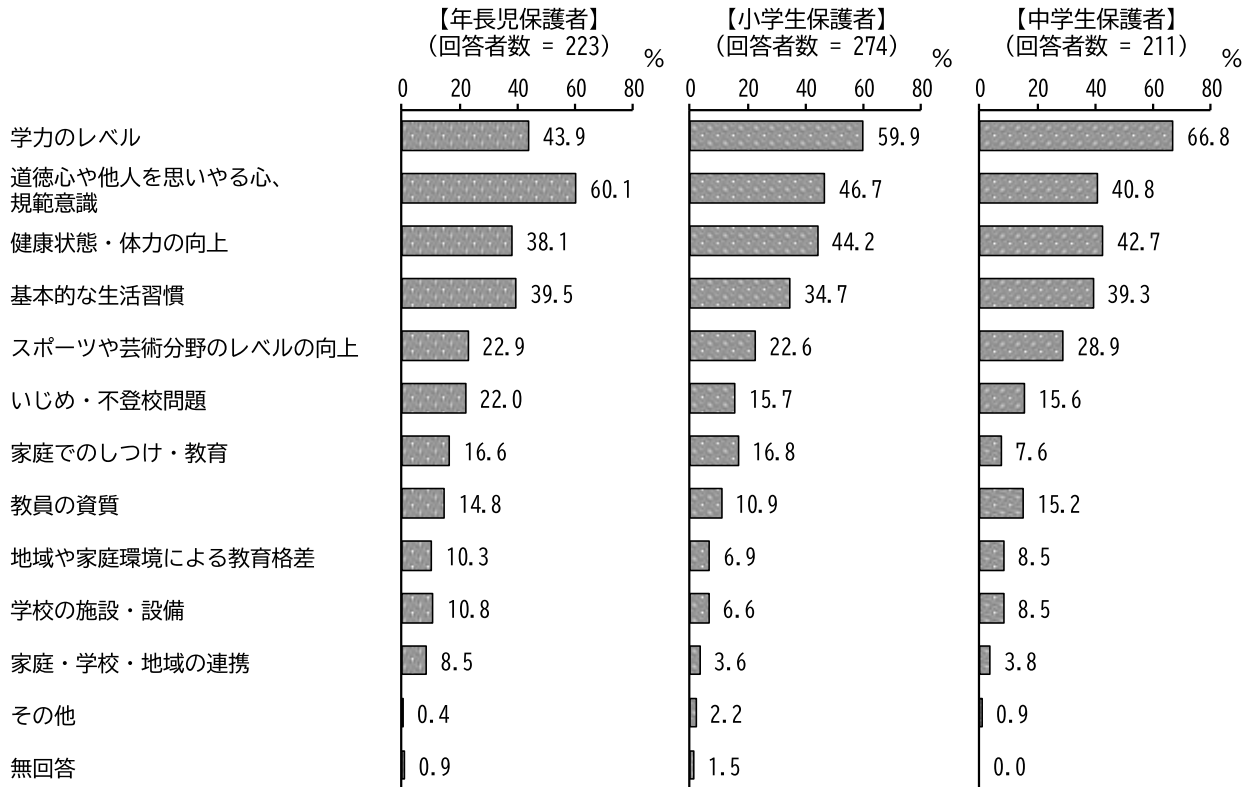
「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた『あてはまる』が最も多いのは「13 弱いものいじめはしない」(95.3%)で、「1 友だちとの良い関係ができています」(93.5%)、「14 人に迷惑をかけない」(91.0%)が続いている。

一方で、「あてはまらない」と「どちらかといえばあてはまらない」を合わせた『あてはまらない』が最も多いのは、「5 よく読書をしている」(64.9%)で、「12 部屋をきれいにしている」(54.0%)、「6 自主的に勉強に取り組んでいます」(52.1%)が続いている。

### 3 子どもの教育について

#### (1) 教育についての関心事

【問2】 現在、子どもの教育について関心があることはなんですか。(3つまで○)



#### 【年長児保護者】

「道徳心や他人を思いやる心、規範意識」の割合が60.1%と最も高く、次いで「学力のレベル」の割合が43.9%、「基本的な生活習慣」の割合が39.5%となっている。

#### 【小学生保護者】

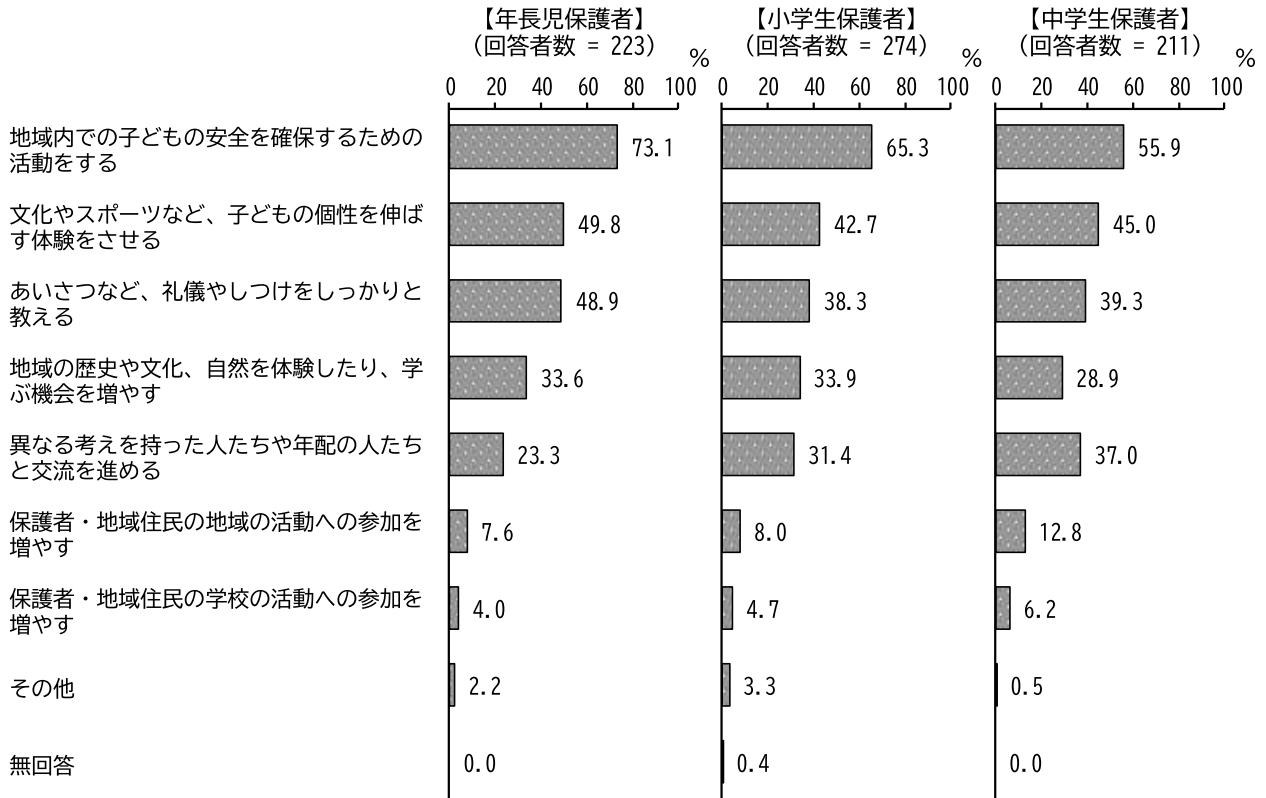
「学力のレベル」の割合が59.9%と最も高く、次いで「道徳心や他人を思いやる心、規範意識」の割合が46.7%、「健康状態・体力の向上」の割合が44.2%となっている。

#### 【中学生保護者】

「学力のレベル」の割合が66.8%と最も高く、次いで「健康状態・体力の向上」の割合が42.7%、「道徳心や他人を思いやる心、規範意識」の割合が40.8%となっている。

(4) 子どもを育てるうえで、地域で力を入れるべきこと

【問5】 子どもを育てるうえで、地域で力を入れるべきことはどんなことだと思いますか。(3つまで○)



【年長児保護者】

「地域内での子どもの安全を確保するための活動をする」の割合が73.1%と最も高く、次いで「文化やスポーツなど、子どもの個性を伸ばす体験をさせる」の割合が49.8%、「あいさつなど、礼儀やしつけをしっかりと教える」の割合が48.9%となっている。

【小学生保護者】

「地域内での子どもの安全を確保するための活動をする」の割合が65.3%と最も高く、次いで「文化やスポーツなど、子どもの個性を伸ばす体験をさせる」の割合が42.7%、「あいさつなど、礼儀やしつけをしっかりと教える」の割合が38.3%となっている。

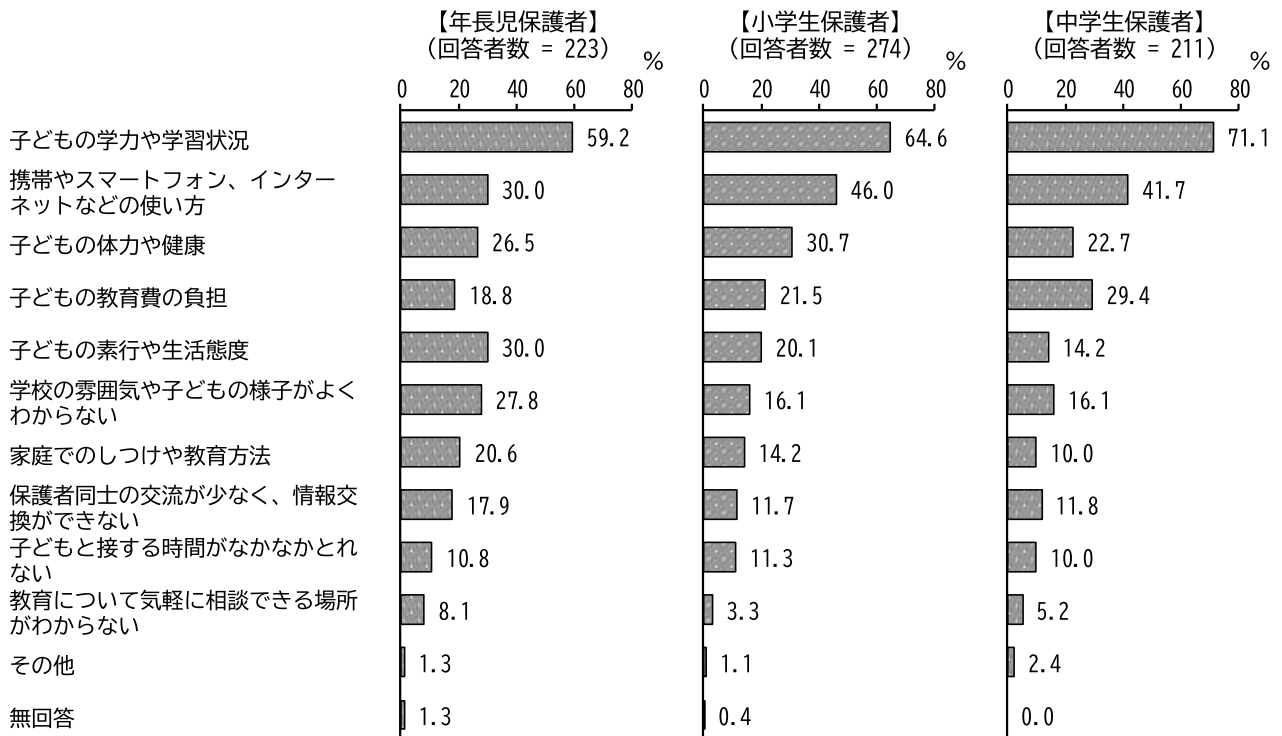
【中学生保護者】

「地域内での子どもの安全を確保するための活動をする」の割合が55.9%と最も高く、次いで「文化やスポーツなど、子どもの個性を伸ばす体験をさせる」の割合が45.0%、「あいさつなど、礼儀やしつけをしっかりと教える」の割合が39.3%となっている。

(6) 教育について気になること、心配なこと

【問7】 お子さんの教育について気になること、心配なことはありますか。

(3つまで○)



【年長児保護者】

「子どもの学力や学習状況」の割合が 59.2%と最も高く、次いで「携帯やスマートフォン、インターネットなどの使い方」、「子どもの素行や生活態度」の割合が 30.0%となっている。

【小学生保護者】

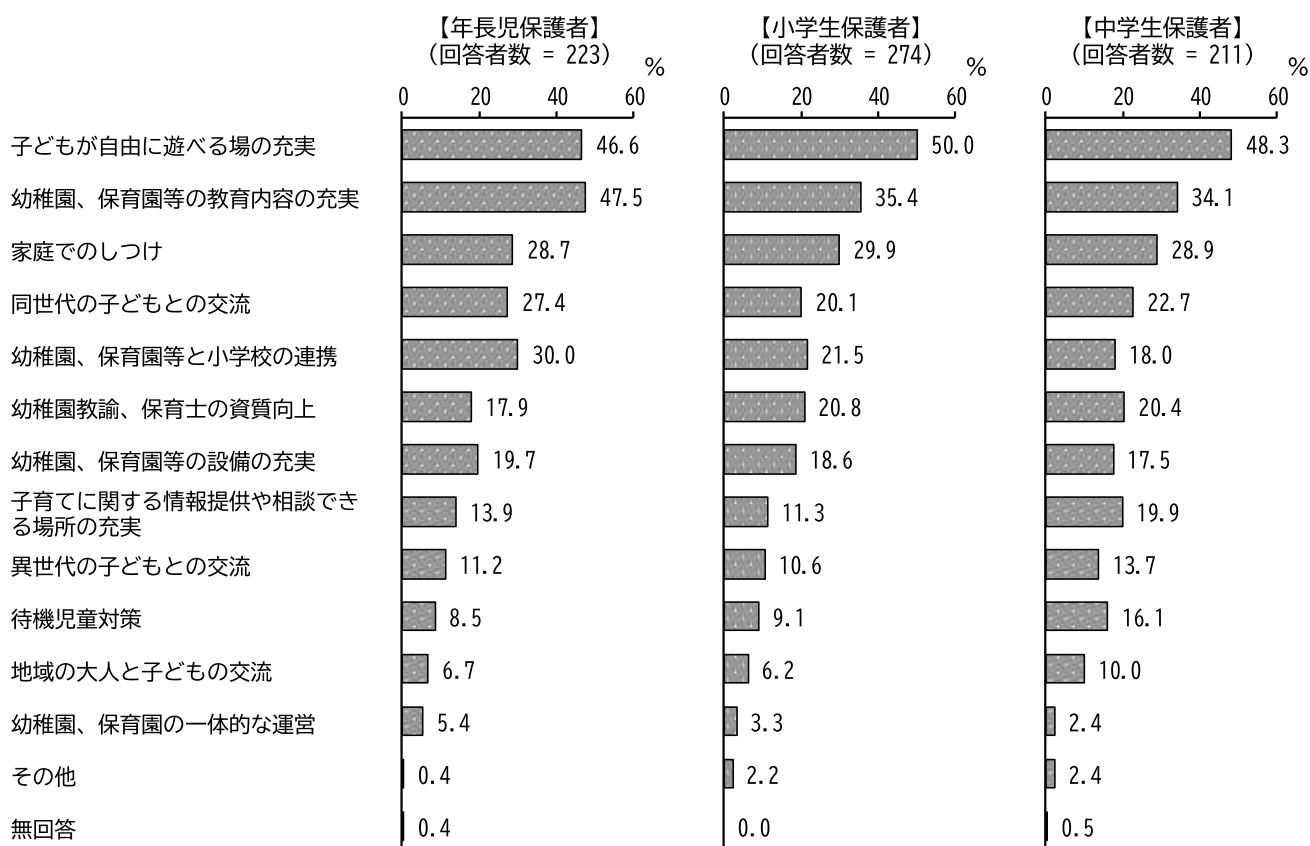
「子どもの学力や学習状況」の割合が 64.6%と最も高く、次いで「携帯やスマートフォン、インターネットなどの使い方」の割合が 46.0%、「子どもの体力や健康」の割合が 30.7%となっている。

【中学生保護者】

「子どもの学力や学習状況」の割合が 71.1%と最も高く、次いで「携帯やスマートフォン、インターネットなどの使い方」の割合が 41.7%、「子どもの教育費の負担」の割合が 29.4%となっている。

(7) 就学前教育の充実のために

【問8】 就学前（小学校入学前）教育の充実のために必要なことはなんだと思いますか。（3つまで○）



【年長児保護者】

「幼稚園、保育園等の教育内容の充実」の割合が 47.5%と最も高く、次いで「子どもが自由に遊べる場の充実」の割合が 46.6%、「幼稚園、保育園等と小学校の連携」の割合が 30.0%となっている。

【小学生保護者】

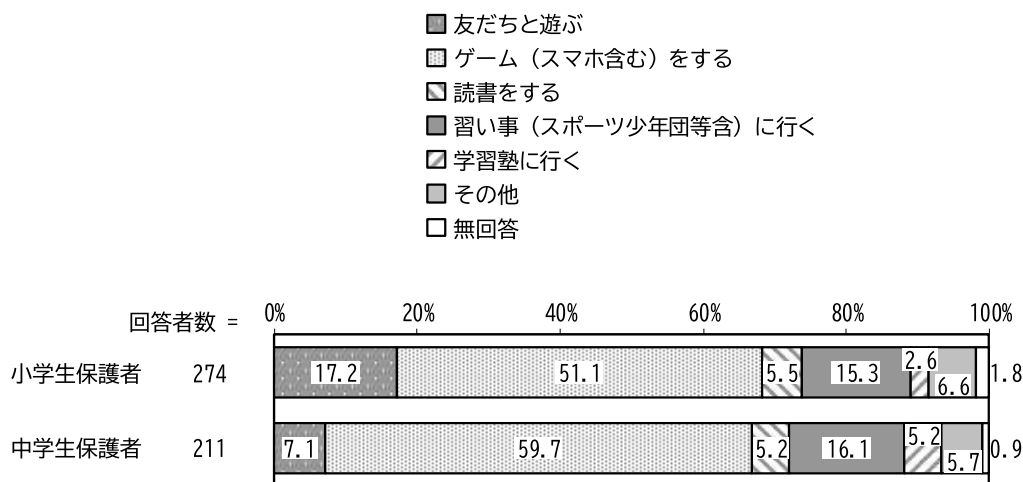
「子どもが自由に遊べる場の充実」の割合が 50.0%と最も高く、次いで「幼稚園、保育園等の教育内容の充実」の割合が 35.4%、「家庭でのしつけ」の割合が 29.9%となっている。

【中学生保護者】

「子どもが自由に遊べる場の充実」の割合が 48.3%と最も高く、次いで「幼稚園、保育園等の教育内容の充実」の割合が 34.1%、「家庭でのしつけ」の割合が 28.9%となっている。

あなたから見て、お子さんは普段どのようなことをして過ごすことが多いですか。

(小学生保護者、中学生保護者：問 10)



**【小学生保護者】**

「ゲーム（スマホ含む）をする」の割合が 51.1%と最も高く、次いで「友だちと遊ぶ」の割合が 17.2%、「習い事（スポーツ少年団等含）に行く」の割合が 15.3%となっている。

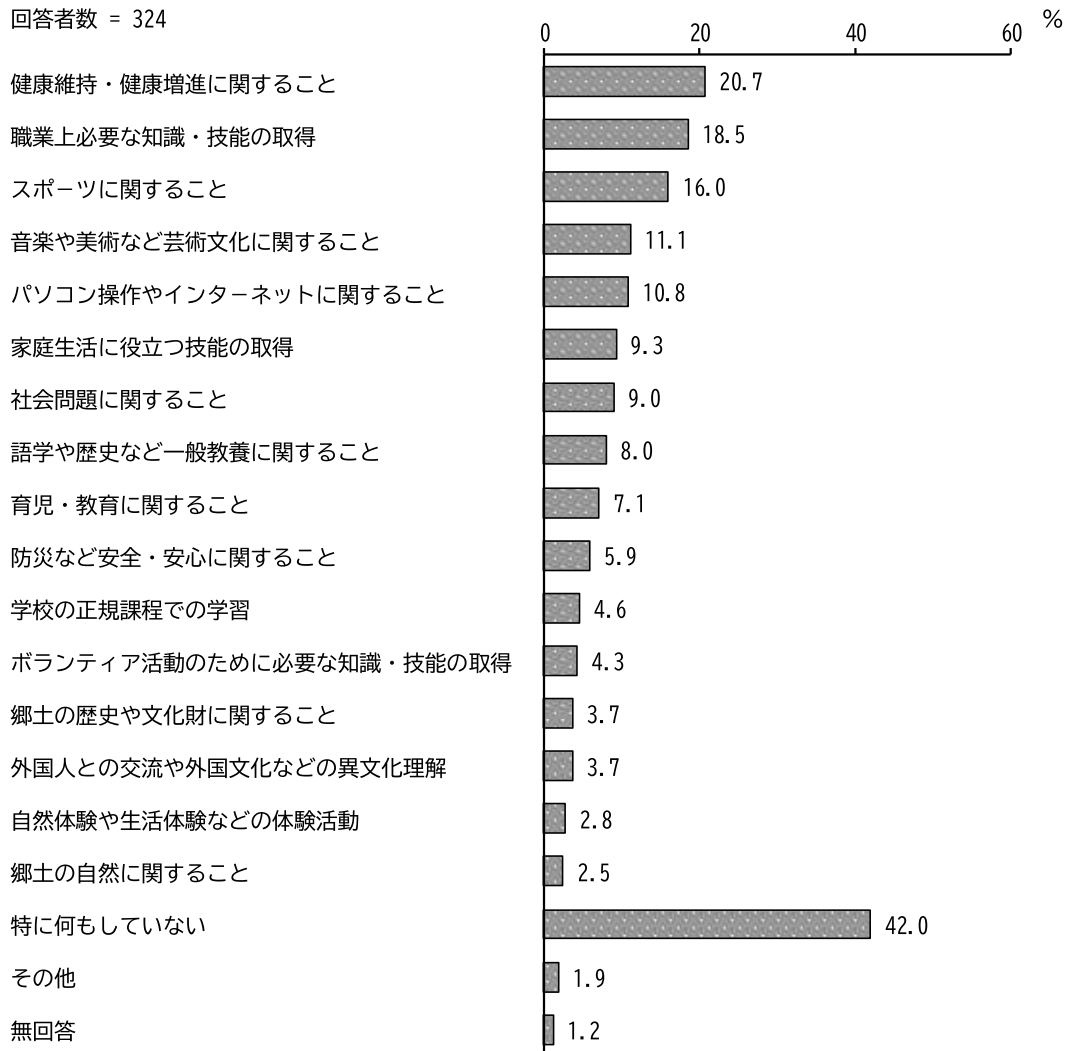
**【中学生保護者】**

「ゲーム（スマホ含む）をする」の割合が 59.7%と最も高く、次いで「習い事（スポーツ少年団等含）に行く」の割合が 16.1%となっている。

## 2 あなたご自身の学習や活動について

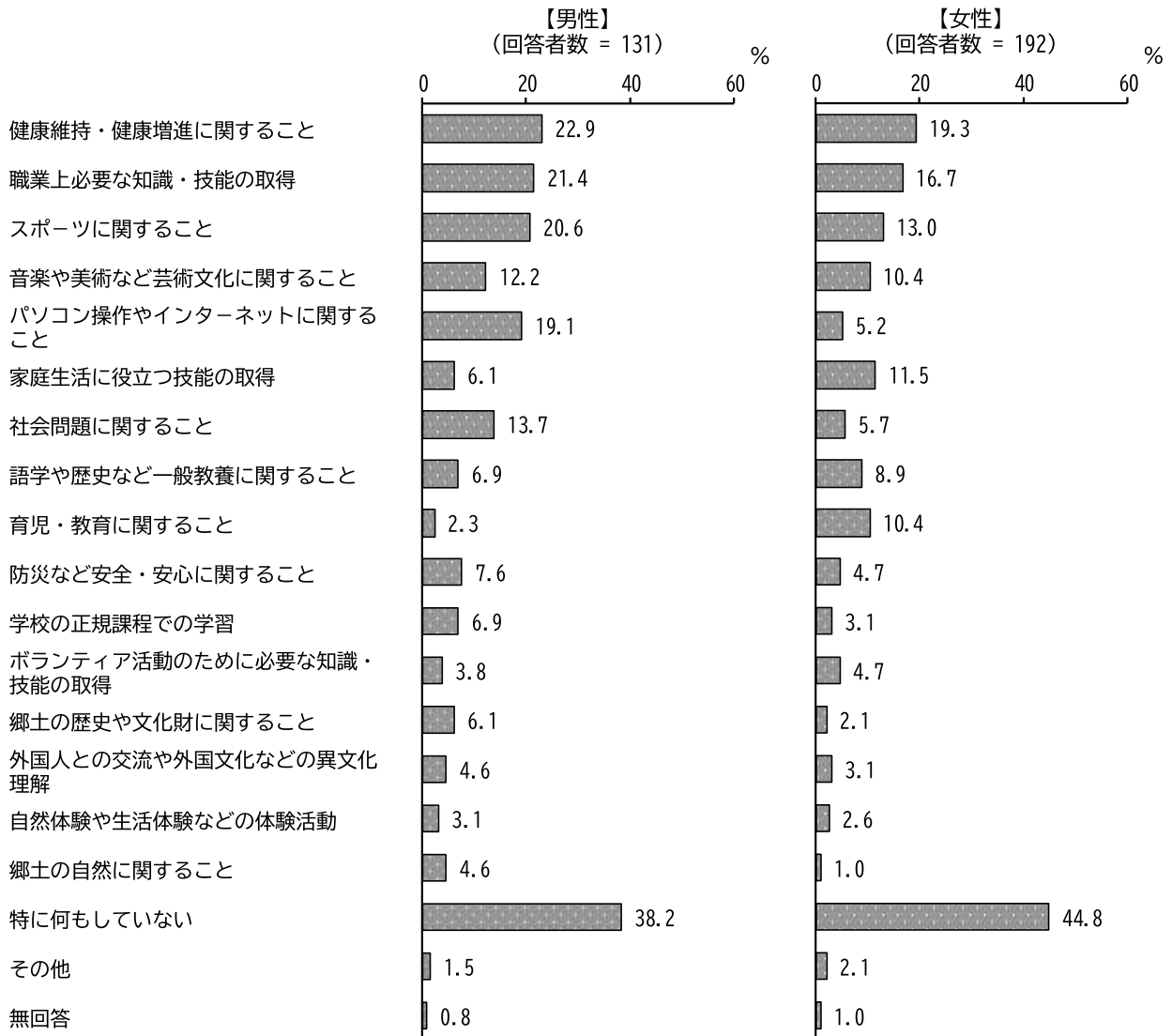
### (1) 行っている学習、活動

問4. あなたは今どのような学習や活動をしていますか。(あてはまるものすべてに○)



「特に何もしていない」の割合が 42.0%と最も高く、次いで「健康維持・健康増進に関すること」の割合が 20.7%、「職業上必要な知識・技能の取得（仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など）」の割合が 18.5%となっている。

【性別】



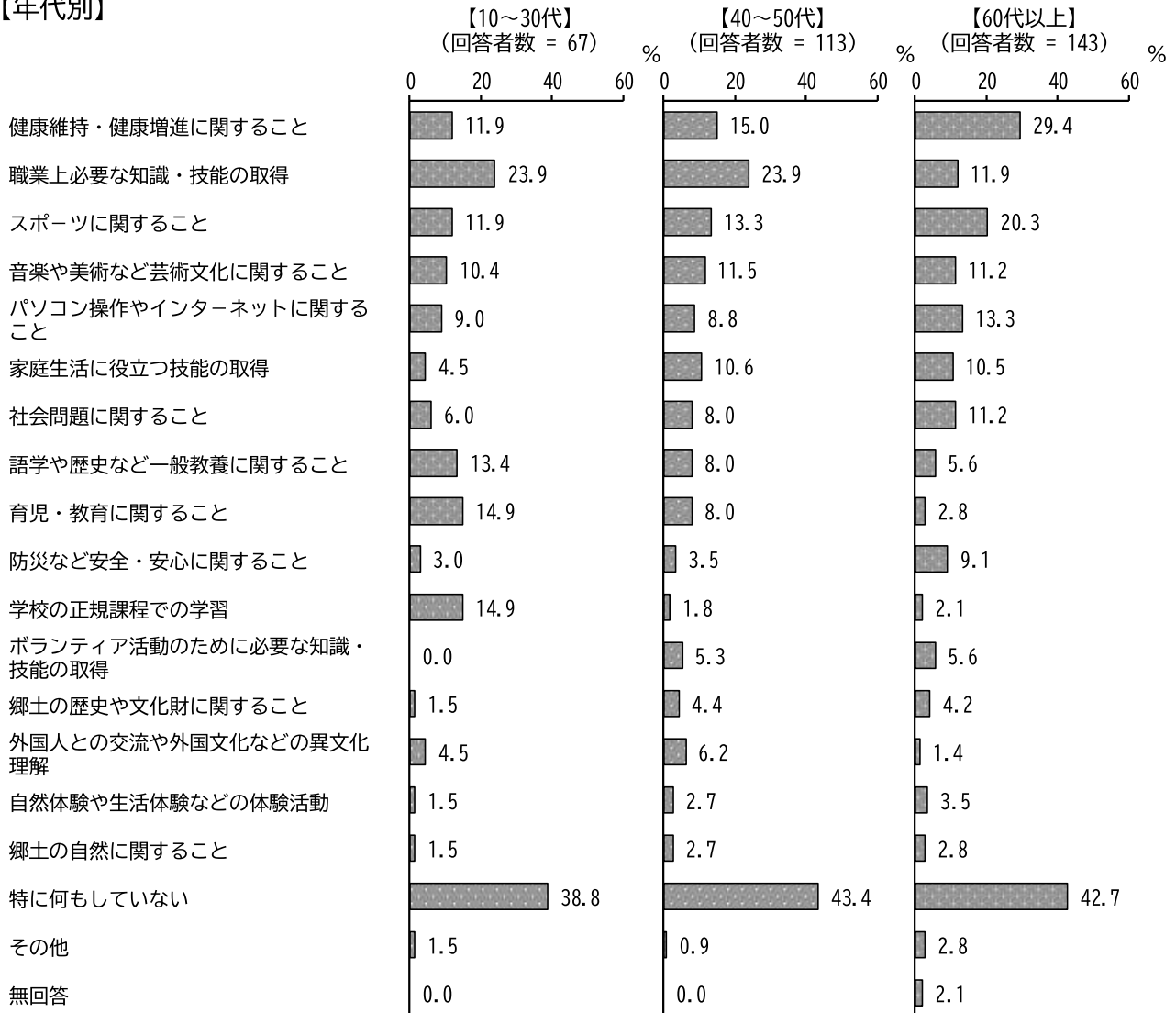
【男性】

「特に何もしていない」の割合が 38.2%と最も高く、次いで「健康維持・健康増進に関すること」の割合が 22.9%、「職業上必要な知識・技能の取得（仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など）」の割合が 21.4%となっている。

【女性】

「特に何もしていない」の割合が 44.8%と最も高く、次いで「健康維持・健康増進に関すること」の割合が 19.3%、「職業上必要な知識・技能の取得（仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など）」の割合が 16.7%となっている。

## 【年代別】



### 【10～30代】

「特に何もしていない」の割合が 38.8%と最も高く、次いで「職業上必要な知識・技能の取得（仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など）」の割合が 23.9%、「育児・教育に関すること（家庭教育、幼児教育、教育問題など）」、「学校（高等・専門・各種学校、大学、大学院など）の正規課程での学習」の割合が 14.9%となっている。

### 【40～50代】

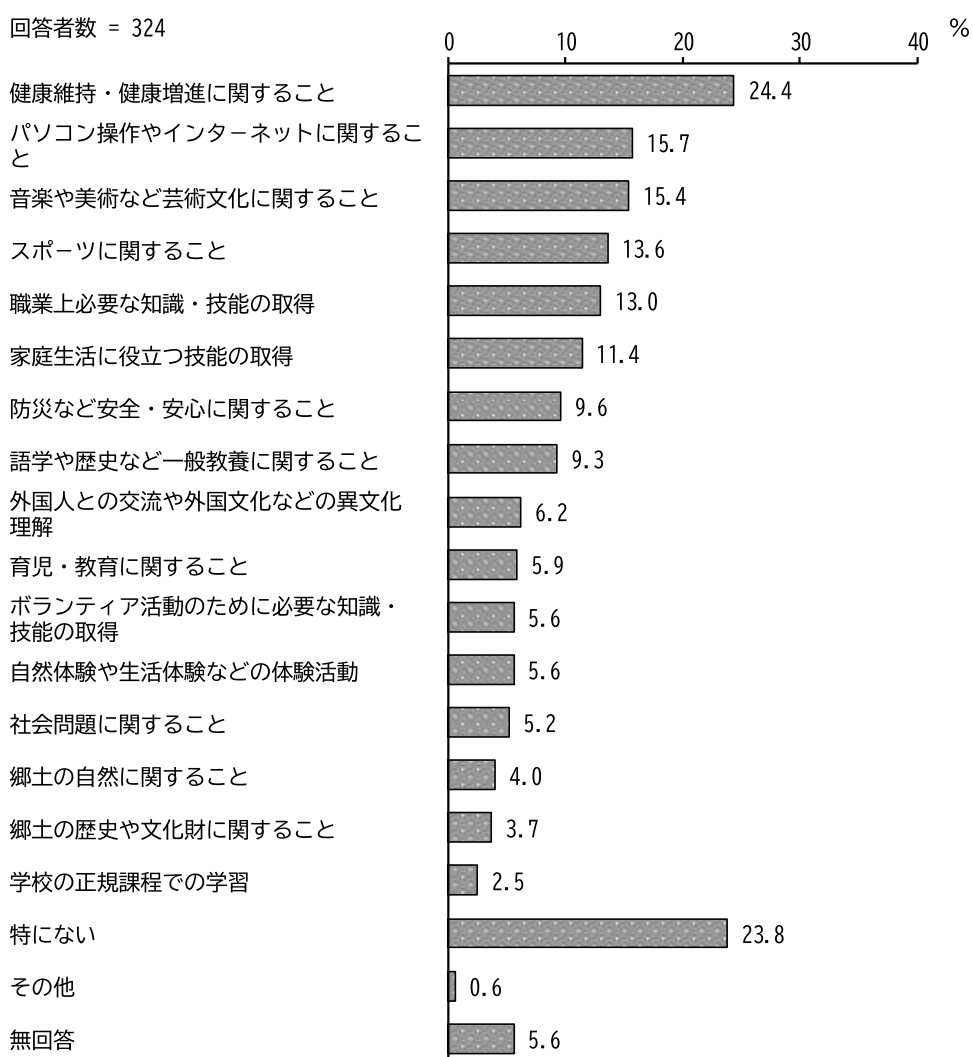
「特に何もしていない」の割合が 43.4%と最も高く、次いで「職業上必要な知識・技能の取得（仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など）」の割合が 23.9%、「健康維持・健康増進に関すること」の割合が 15.0%となっている。

### 【60代以上】

「特に何もしていない」の割合が 42.7%と最も高く、次いで「健康維持・健康増進に関すること」の割合が 29.4%、「スポーツに関すること」の割合が 20.3%となっている。

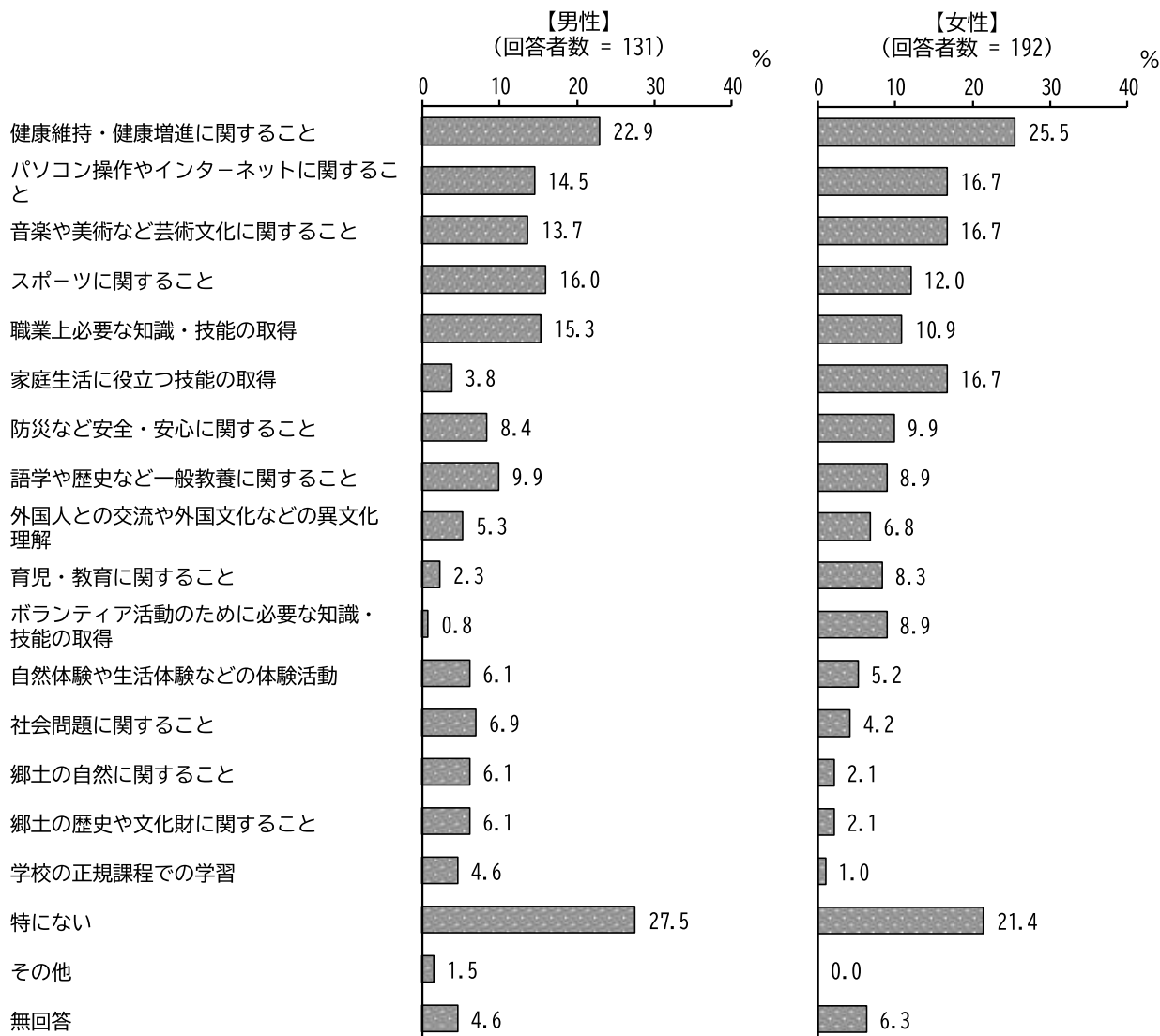
### (3) 今後行ってみたい学習、活動

問5. 今後、どのような学習や活動をしてみたいと思いますか。(3つまで○)



「健康維持・健康増進に関すること」の割合が 24.4%と最も高く、次いで「特にない」の割合が 23.8%、「パソコン操作やインターネットに関すること」の割合が 15.7%となっている。

## 【性別】



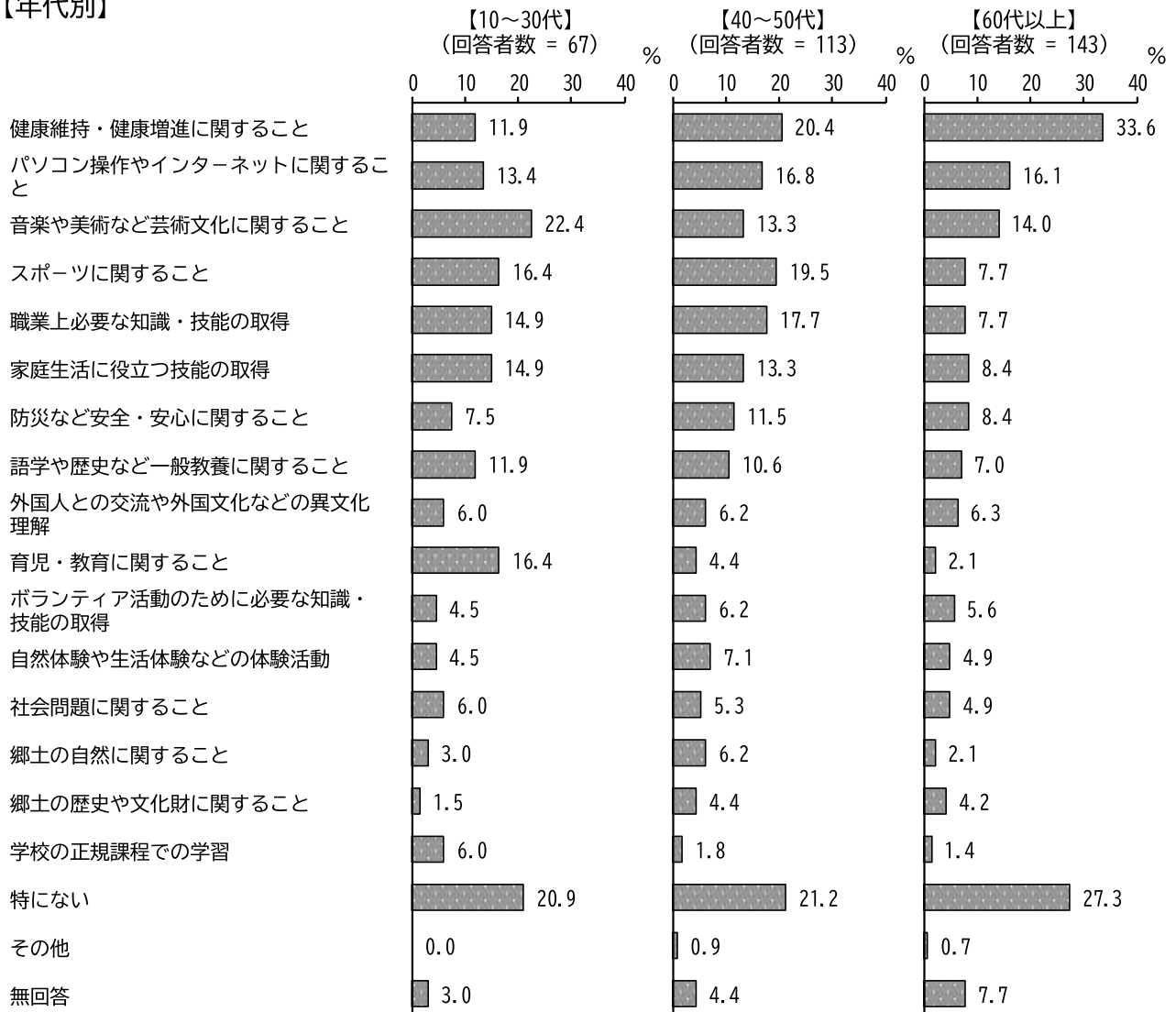
### 【男性】

「特にない」の割合が27.5%と最も高く、次いで「健康維持・健康増進に関すること」の割合が22.9%、「スポーツに関すること」の割合が16.0%となっている。

### 【女性】

「健康維持・健康増進に関すること」の割合が25.5%と最も高く、次いで「特にない」の割合が21.4%、「パソコン操作やインターネットに関すること」、「音楽や美術など芸術文化に関すること」、「家庭生活に役立つ技能の取得」の割合が16.7%となっている。

## 【年代別】



### 【10～30代】

「音楽や美術など芸術文化に関すること」の割合が22.4%と最も高く、次いで「特にない」の割合が20.9%、「スポーツに関すること」、「育児・教育に関すること」の割合が16.4%となっている。

### 【40～50代】

「特にない」の割合が21.2%と最も高く、次いで「健康維持・健康増進に関すること」の割合が20.4%、「スポーツに関すること」の割合が19.5%となっている。

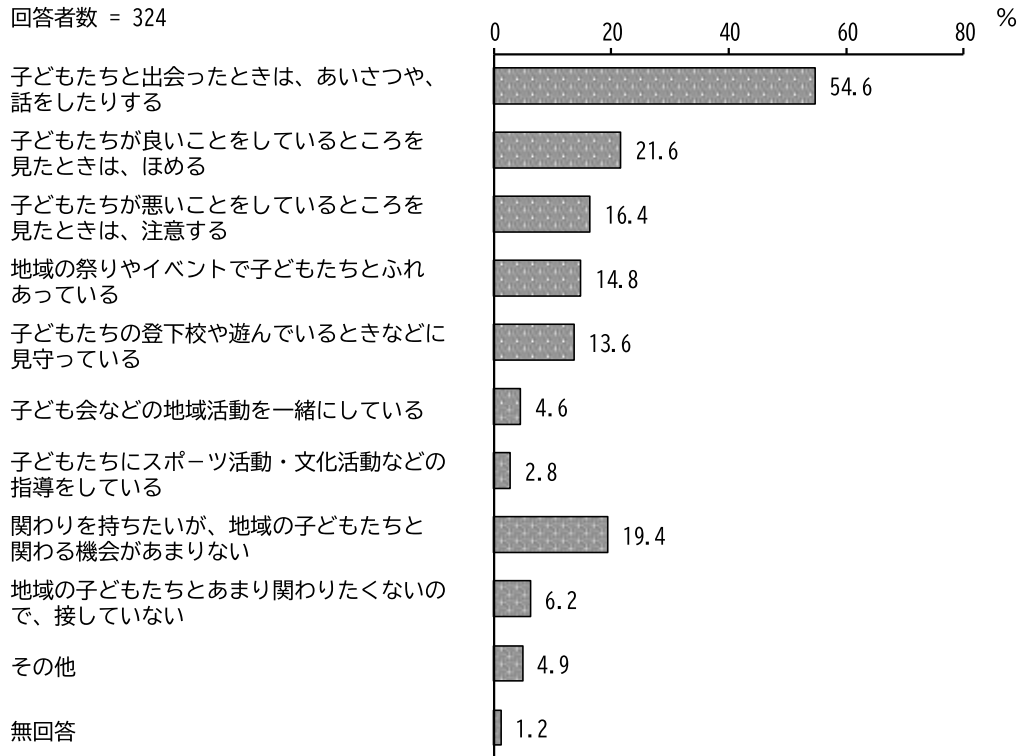
### 【60代以上】

「健康維持・健康増進に関すること」の割合が33.6%と最も高く、次いで「特にない」の割合が27.3%、「パソコン操作やインターネットに関すること」の割合が16.1%となっている。

#### 4 裾野市の子どもたちとの接し方やご意見について

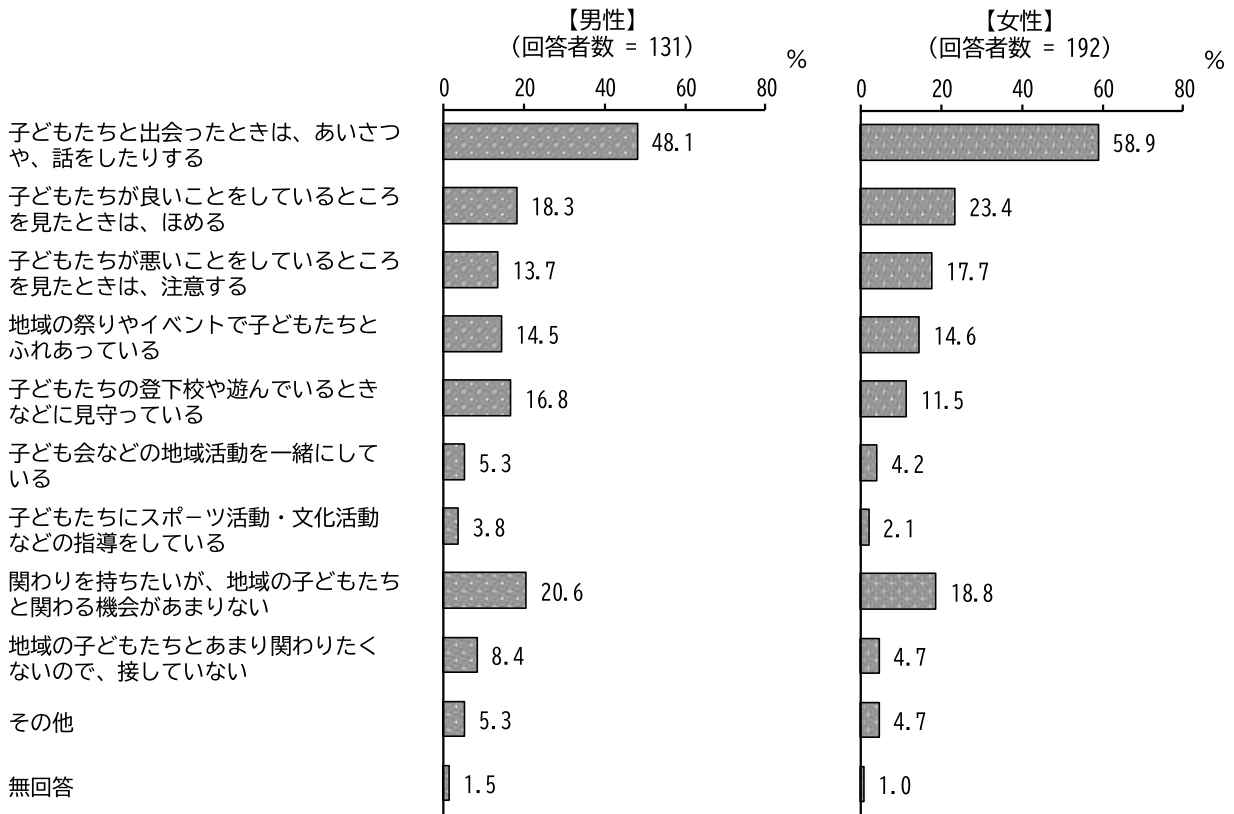
##### (1) 地域の子どもたちへの接し方

問 10. 地域の子どもたちとどのように接していますか。(あてはまるものすべてに○)



「子どもたちと出会ったときは、あいさつや、話をしたりする」の割合が 54.6%と最も高く、次いで「子どもたちが良いことをしているところを見たときは、ほめる」の割合が 21.6%、「関わりを持ちたいが、地域の子どもたちと関わる機会があまりない」の割合が 19.4%となっている。

【性別】



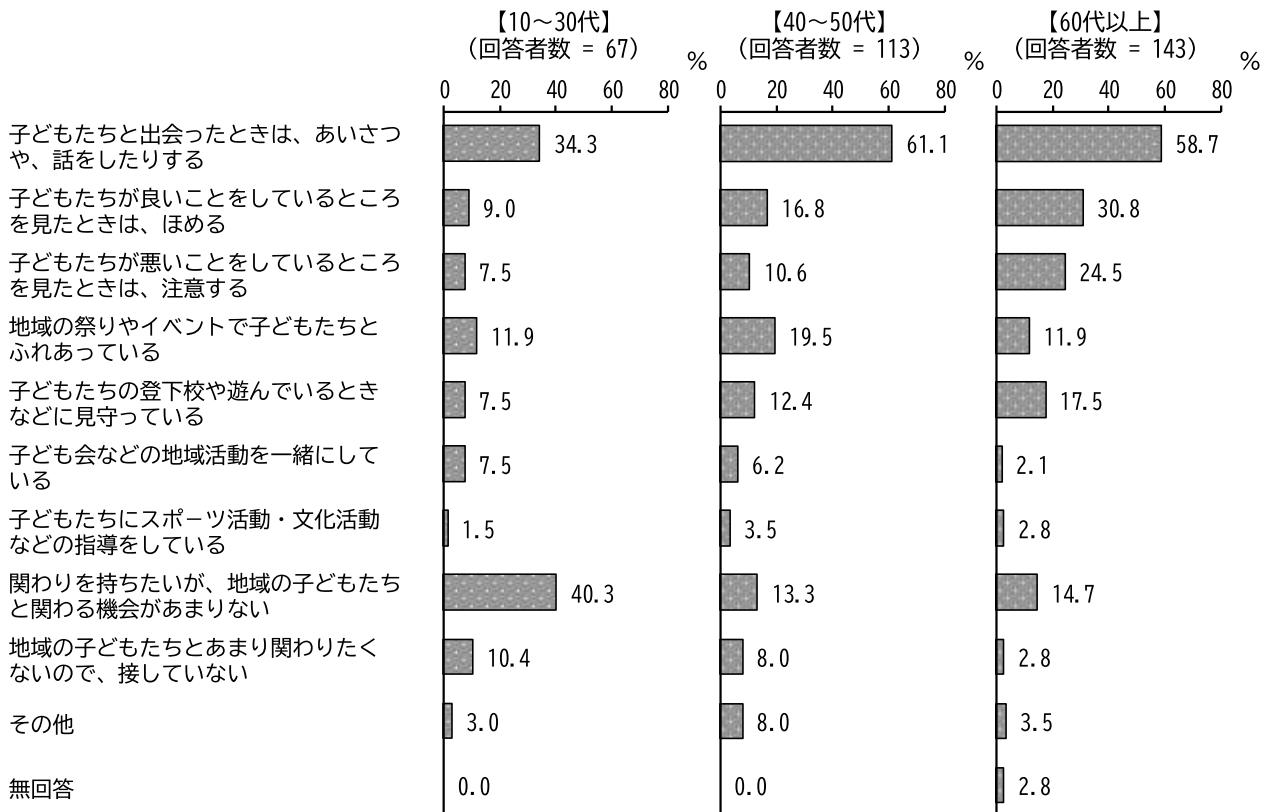
【男性】

「子どもたちと出会ったときは、あいさつや、話をしたりする」の割合が 48.1%と最も高く、次いで「関わりを持ちたいが、地域の子どもたちと関わる機会があまりない」の割合が 20.6%、「子どもたちが良いことをしているところを見たときは、ほめる」の割合が 18.3%となっている。

【女性】

「子どもたちと出会ったときは、あいさつや、話をしたりする」の割合が 58.9%と最も高く、次いで「子どもたちが良いことをしているところを見たときは、ほめる」の割合が 23.4%、「関わりを持ちたいが、地域の子どもたちと関わる機会があまりない」の割合が 18.8%となっている。

## 【年代別】



### 【10～30代】

「関わりを持ちたいが、地域の子どもたちと関わる機会があまりない」の割合が40.3%と最も高く、次いで「子どもたちと出会ったときは、あいさつや、話をしたりする」の割合が34.3%、「地域の祭りやイベントで子どもたちとふれあっている」の割合が11.9%となっている。

### 【40～50代】

「子どもたちと出会ったときは、あいさつや、話をしたりする」の割合が61.1%と最も高く、次いで「地域の祭りやイベントで子どもたちとふれあっている」の割合が19.5%、「子どもたちが良いことをしているところを見たときは、ほめる」の割合が16.8%となっている。

### 【60代以上】

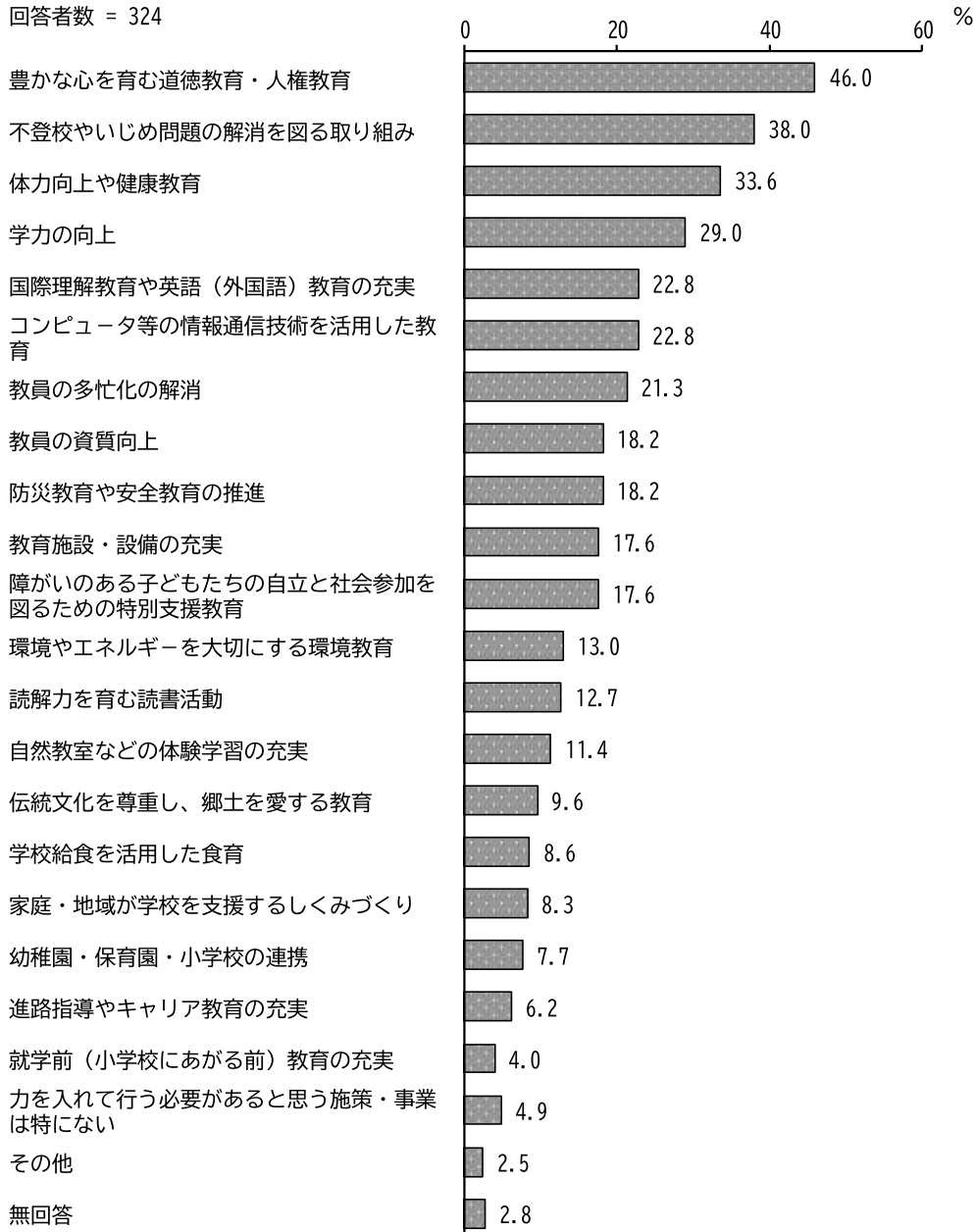
「子どもたちと出会ったときは、あいさつや、話をしたりする」の割合が58.7%と最も高く、次いで「子どもたちが良いことをしているところを見たときは、ほめる」の割合が30.8%、「子どもたちが悪いことをしているところを見たときは、注意する」の割合が24.5%となっている。

5 裾野市の教育施策や教育事業について

(1) 裾野市が特に力を入れて行う必要があると思う教育施策や教育事業

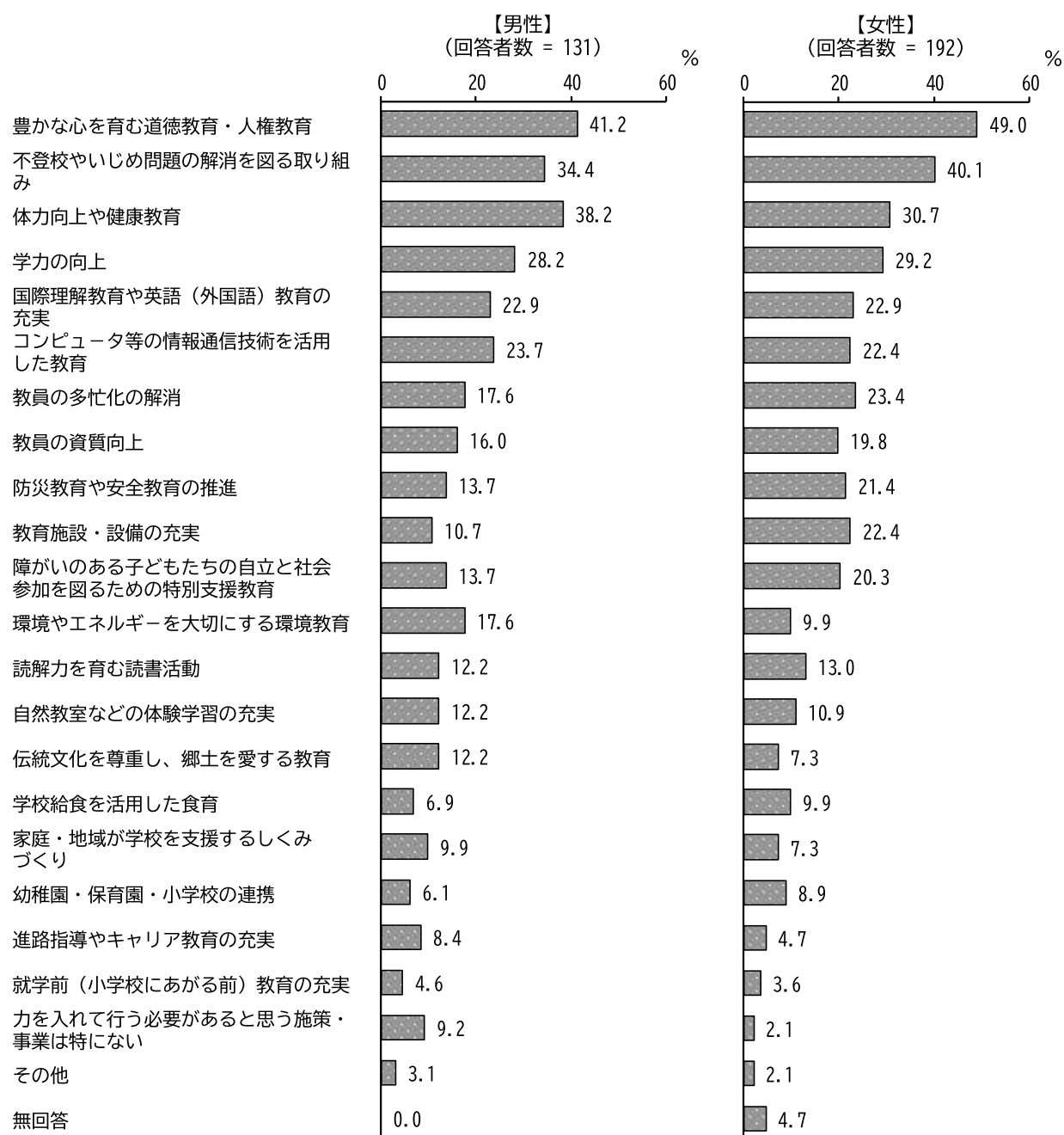
問 12. 裾野市が特に力を入れて行う必要があると思う教育施策や教育事業は何ですか。学校教育、生涯学習、スポーツ活動について、それぞれご回答ください。

①学校教育について（5つまで○）



「豊かな心を育む道徳教育・人権教育」の割合が 46.0%と最も高く、次いで「不登校やいじめ問題の解消を図る取り組み」の割合が 38.0%、「体力向上や健康教育」の割合が 33.6%となっている。

【性別】



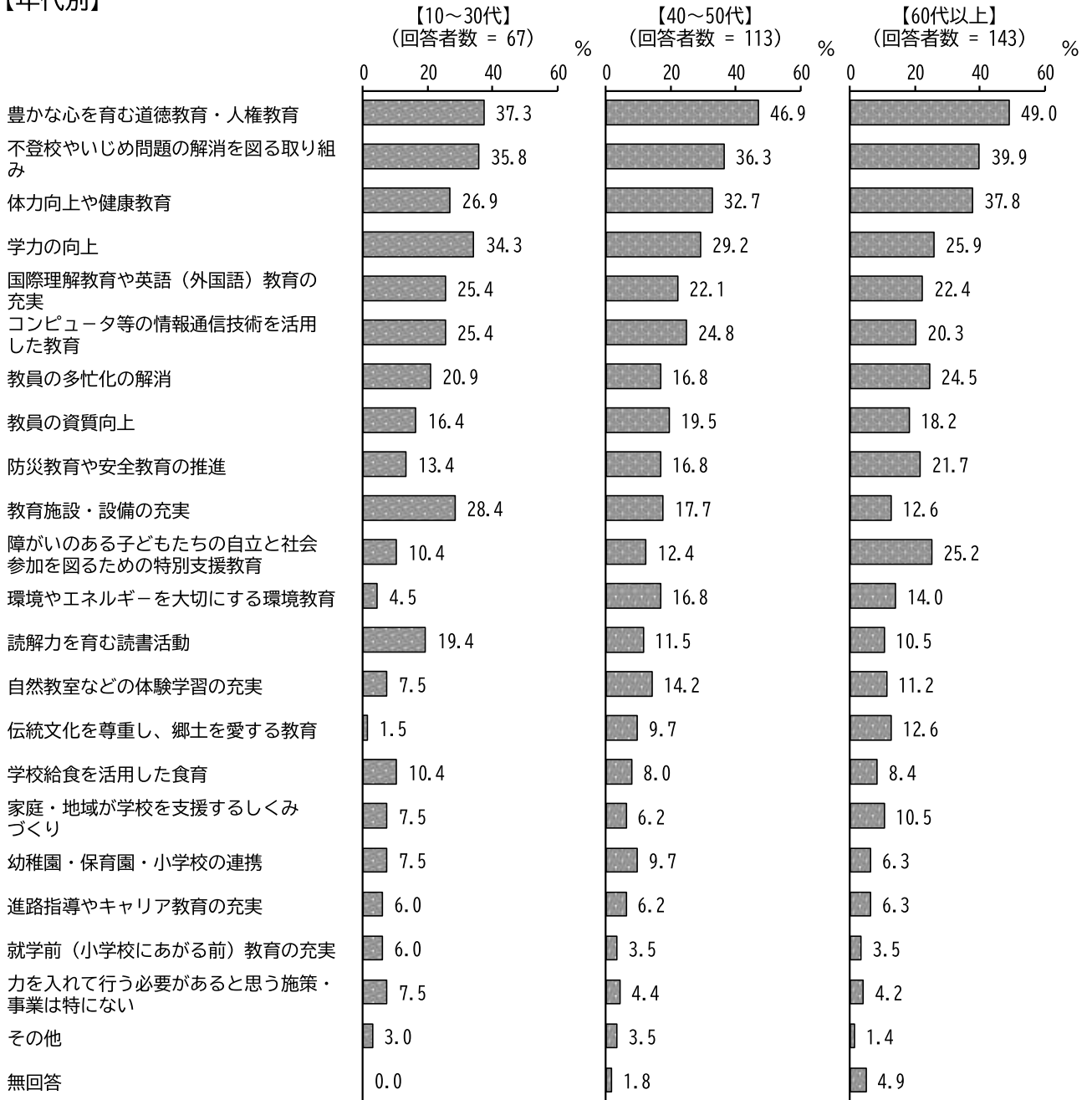
【男性】

「豊かな心を育む道徳教育・人権教育」の割合が 41.2%と最も高く、次いで「体力向上や健康教育」の割合が 38.2%、「不登校やいじめ問題の解消を図る取り組み」の割合が 34.4%となっている。

【女性】

「豊かな心を育む道徳教育・人権教育」の割合が 49.0%と最も高く、次いで「不登校やいじめ問題の解消を図る取り組み」の割合が 40.1%、「体力向上や健康教育」の割合が 30.7%となっている。

【年代別】



【10～30代】

「豊かな心を育む道徳教育・人権教育」の割合が37.3%と最も高く、次いで「不登校やいじめ問題の解消を図る取り組み」の割合が35.8%、「学力の向上」の割合が34.3%となっている。

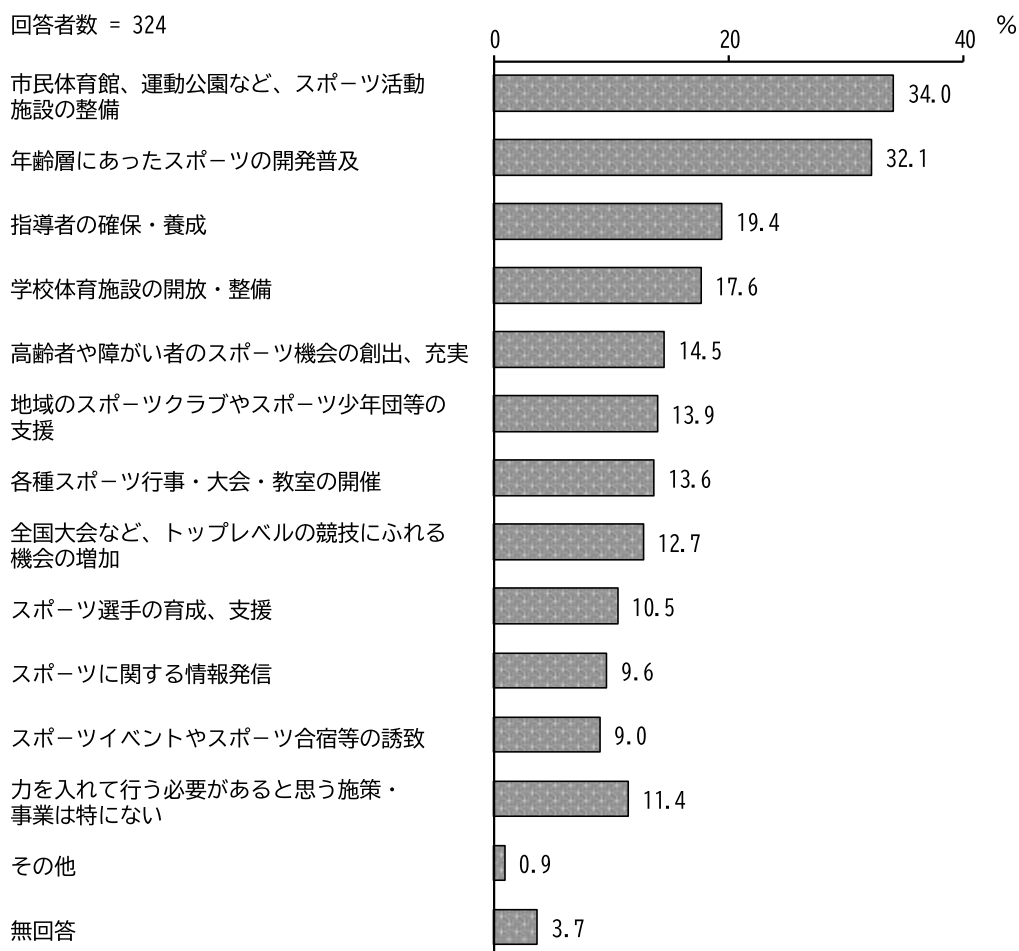
【40～50代】

「豊かな心を育む道徳教育・人権教育」の割合が46.9%と最も高く、次いで「不登校やいじめ問題の解消を図る取り組み」の割合が36.3%、「体力向上や健康教育」の割合が32.7%となっている。

**【60代以上】**

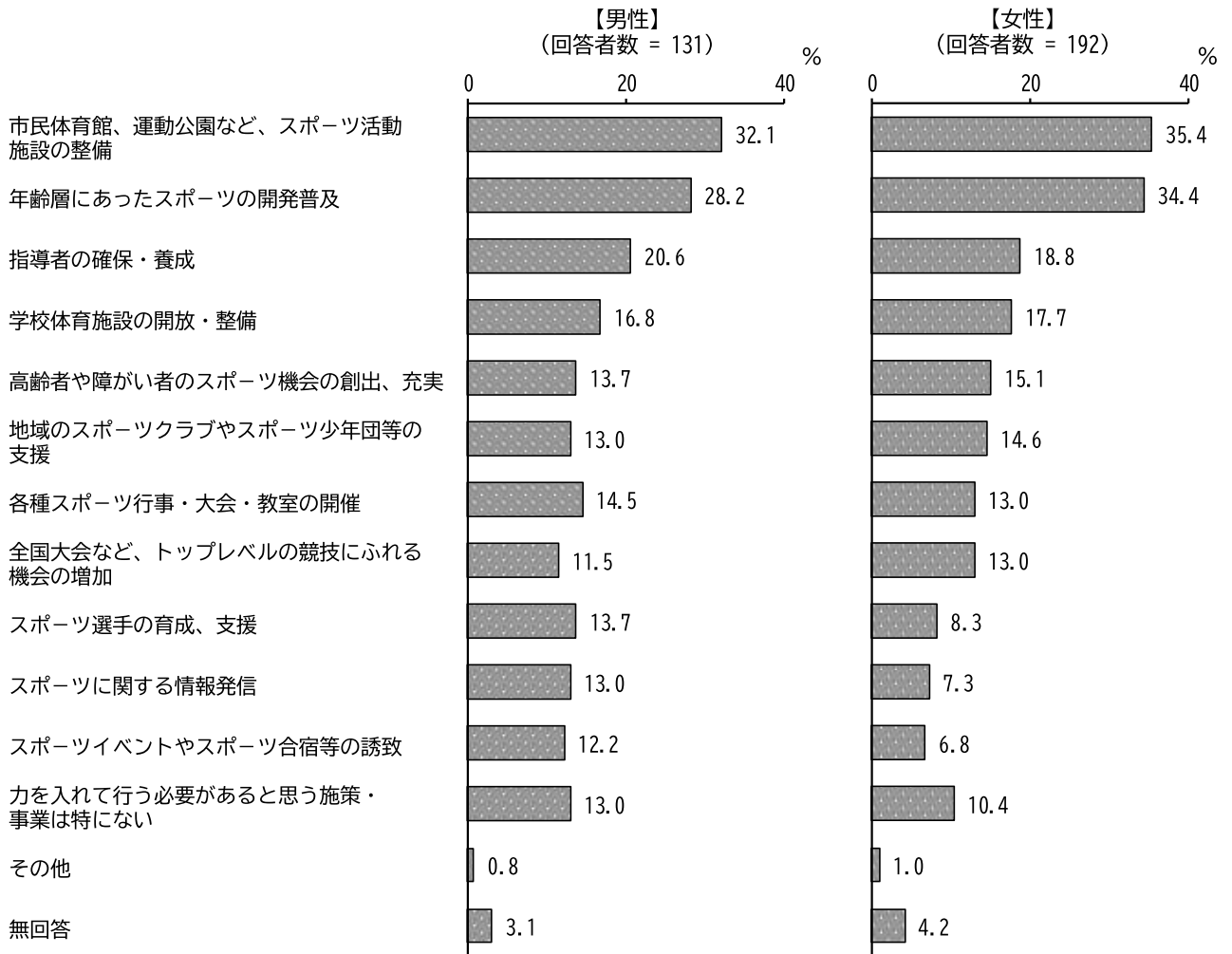
「豊かな心を育む道徳教育・人権教育」の割合が49.0%と最も高く、次いで「不登校やいじめ問題の解消を図る取り組み」の割合が39.9%、「体力向上や健康教育」の割合が37.8%となっている。

### ③スポーツ活動について（3つまで）



「市民体育館、運動公園など、スポーツ活動施設の整備」の割合が 34.0%と最も高く、次いで「年齢層にあったスポーツの開発普及」の割合が 32.1%、「指導者の確保・養成」の割合が 19.4%となっている。

【性別】



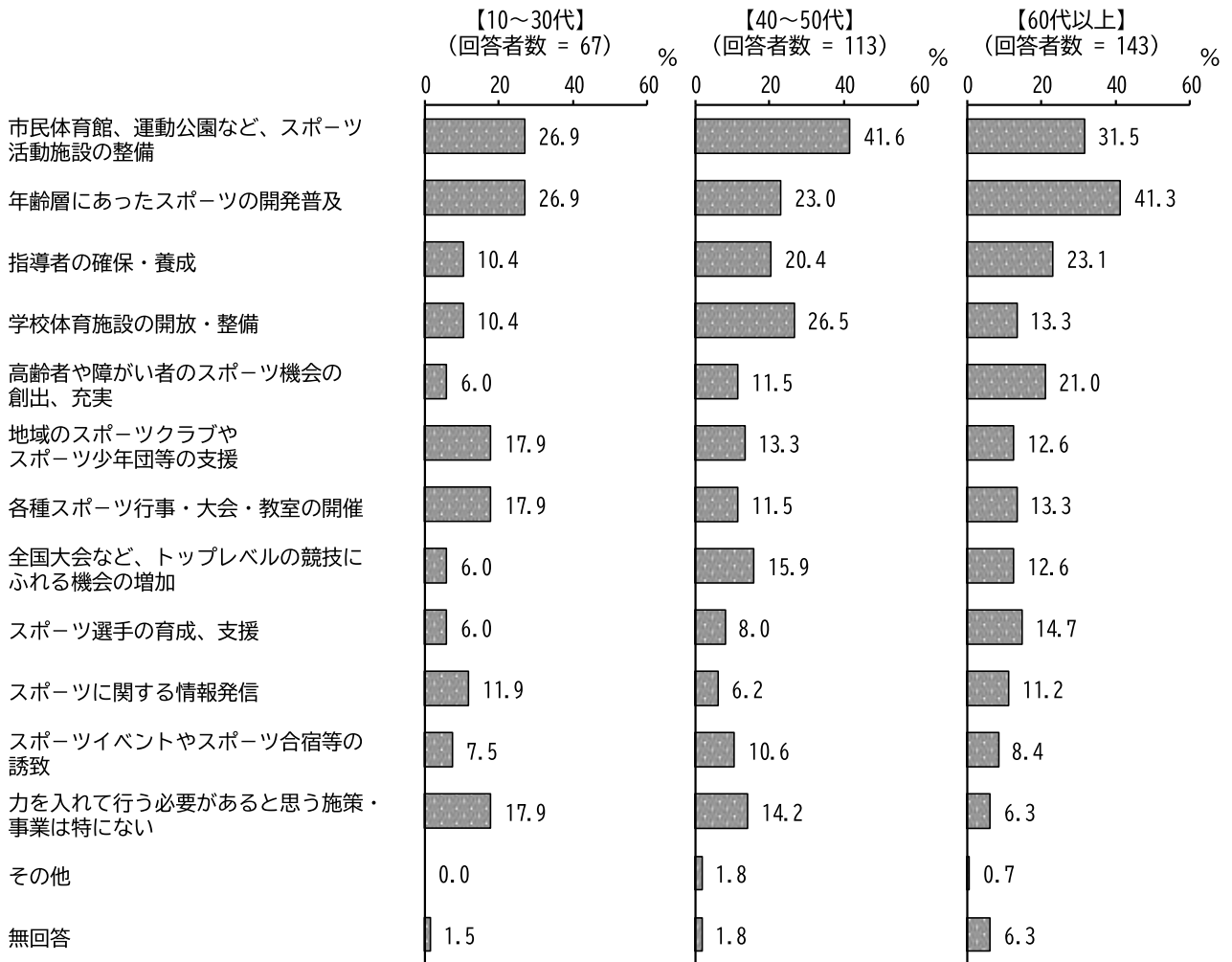
【男性】

「市民体育館、運動公園など、スポーツ活動施設の整備」の割合が32.1%と最も高く、次いで「年齢層にあったスポーツの開発普及」の割合が28.2%、「指導者の確保・養成」の割合が20.6%となっている。

【女性】

「市民体育館、運動公園など、スポーツ活動施設の整備」の割合が35.4%と最も高く、次いで「年齢層にあったスポーツの開発普及」の割合が34.4%、「指導者の確保・養成」の割合が18.8%となっている。

【年代別】



【10～30代】

「市民体育館、運動公園など、スポーツ活動施設の整備」、「年齢層にあったスポーツの開発普及」の割合が26.9%と最も高く、次いで「地域のスポーツクラブやスポーツ少年団等の支援」、「各種スポーツ行事・大会・教室の開催」の割合が17.9%となっている。

【40～50代】

「市民体育館、運動公園など、スポーツ活動施設の整備」の割合が41.6%と最も高く、次いで「学校体育施設の開放・整備」の割合が26.5%、「年齢層にあったスポーツの開発普及」の割合が23.0%となっている。

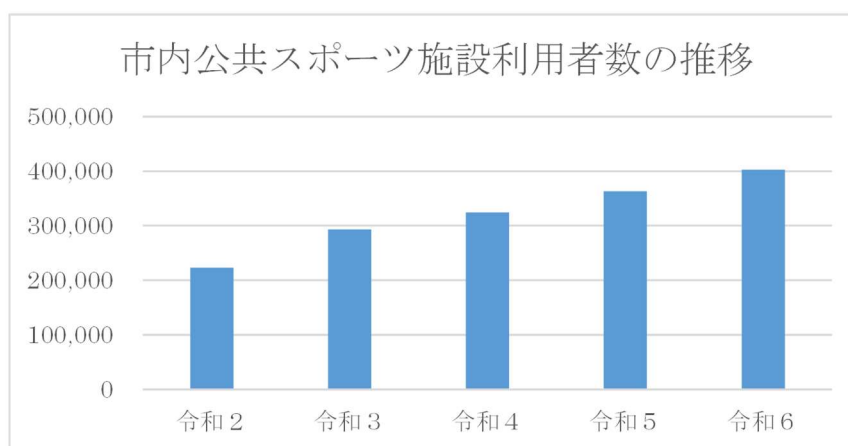
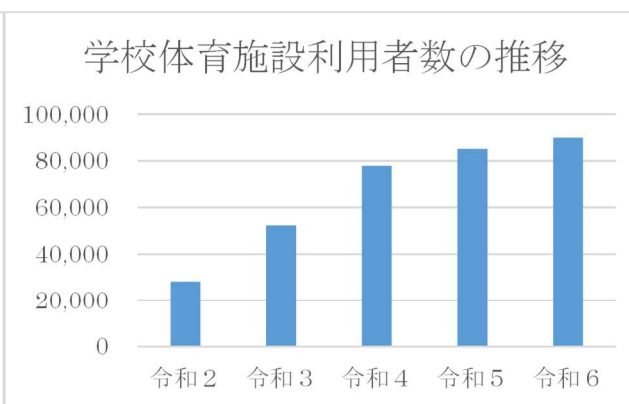
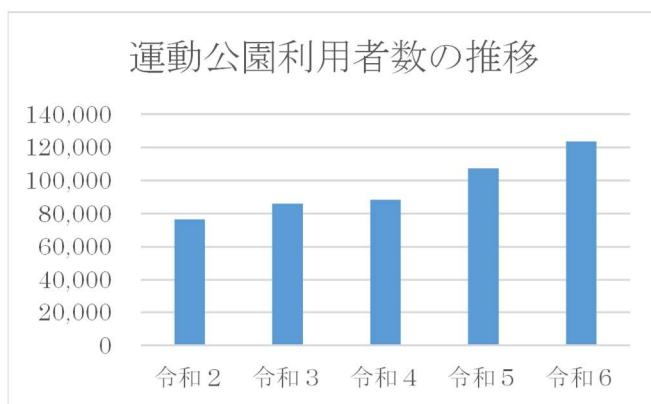
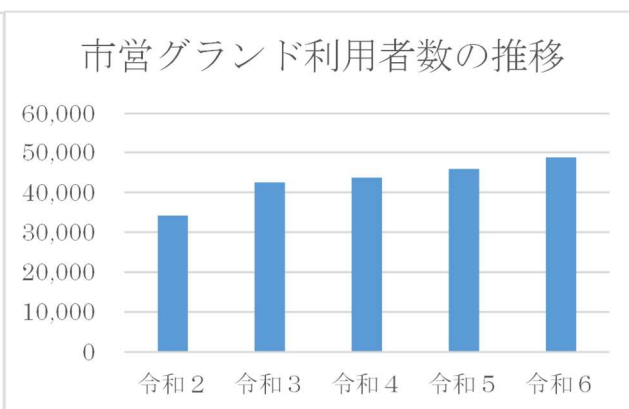
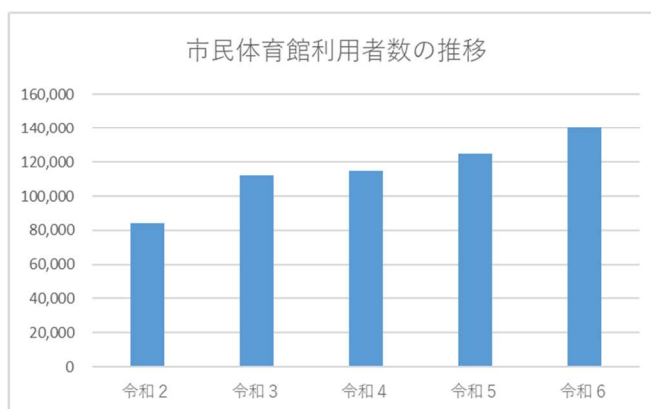
【60代以上】

「年齢層にあったスポーツの開発普及」の割合が41.3%と最も高く、次いで「市民体育館、運動公園など、スポーツ活動施設の整備」の割合が31.5%、「指導者の確保・養成」の割合が23.1%となっている。

## 資料 4 市内公共スポーツ施設の利用状況推移

(人)

	市民体育館	市営グラウンド	運動公園	学校体育施設	計
令和 2	84,272	34,185	76,626	28,160	223,243
令和 3	112,162	42,456	86,085	52,288	292,991
令和 4	114,686	43,690	88,398	77,866	324,640
令和 5	125,024	45,860	107,436	85,214	363,534
令和 6	140,354	48,739	123,559	89,982	402,634



## 資料5 裾野市スポーツ推進審議会条例

平成 23 年 12 月 9 日 条例第 17 号

裾野市スポーツ振興審議会条例(昭和 49 年裾野市条例第 15 号)の全部を改正する。

(設置)

第 1 条 スポーツ基本法(平成 23 年法律第 78 号。以下「法」という。)第 31 条の規定に基づき、裾野市スポーツ推進審議会(以下「審議会」という。)を置く。

(職務)

第 2 条 審議会は、次に掲げるスポーツの推進に関する重要事項について裾野市教育委員会(以下「教育委員会」という。)の諮問に応じ調査審議し、及びこれらの事項に関して教育委員会に建議する。

- (1) 法第 10 条第 1 項に規定する地方スポーツ推進計画に関すること
- (2) 法第 35 条の規定により補助金の交付について意見を述べること。
- (3) スポーツの施設及び設備の整備施設又は設備の運営又は整備に関すること。
- (4) スポーツの指導者の養成及びその資質の向上に関すること。
- (5) スポーツ事業の実施及び奨励に関すること。
- (6) スポーツ顕彰対象者の選考に関すること。
- (7) スポーツの団体の育成に関すること。
- (8) スポーツの事故の防止に関すること。
- (9) スポーツの技術水準の向上に関すること。
- (10) 前各号に掲げるもののほか、スポーツの推進に関すること。

(組織)

第 3 条 審議会は、委員 20 人以内で組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者のうちから教育委員会が市長の意見を聴いて任命し、又は委嘱する。

- (1) 学識経験者
- (2) 関係行政機関の職員
- (3) スポーツ団体の代表者

3 審議会に会長及び副会長を起し、委員の互選より定める。

(委員の任期)

第 4 条 委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長の職務)

第5条 会長は、会務を総理する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 審議会は、会長が招集する。

2 審議会は、委員の半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 審議会の議事は、出席委員の過半数を持って決し、可否同数のときは会長の決するところによる。

(庶務)

第7条 審議会の庶務は、教育委員会事務局において処理する。

(委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営その他必要な事項は、教育委員会で定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の際現に改正前の裾野市スポーツ振興審議会条例(以下「改正前の条例」という。)第3条第2項の規定により任命又は委嘱された裾野市スポーツ振興審議会(以下「旧審議会」という。)の委員である者は、この条例の施行の日に、第3条第2項の規定により、審議会の員として任命又は委嘱されたものとみなす。この場合において、任命又は委嘱されたものとみなされる者の任期は、第4条第1項の規定にかかわらず、同日における旧審議会の委員としての任期の残任期間と同一の期間とする。

3 この条例の施行の際現に改正前の条例第3条第3項の規定により選任された会長又は副会長である者は、それぞれ、この条例の施行の日に、第3条第3項の規定により審議会の会長又は副会長として選任されたものとみなす。

附 則(平成26年条例第3号)抄

(施行期日)

1 この条例は、平成26年4月1日から施行する。

## 第3期裾野市スポーツ推進計画（令和8～12年度）

令和8年3月 発行

編集・発行 裾野市教育委員会

静岡県裾野市佐野1059番地

電話 055-992-1111